

B&G

全国サミット

全国教育長会議

報告書 2024

第17回「B&G全国サミット」 2025.1.22

ミクロとマクロでみる公共施設の在り方



第21回「B&G全国教育長会議」 2024.11.22

部活動の地域“移行”から“展開”へ！～「指導者の確保」は課題解決につながるのか？～

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

公益財団法人 B&G財団

目 次

第17回「B&G全国サミット」

第17回「B&G全国サミット」の概要	p.2
主催者挨拶	p.3
来賓紹介	p.3
イントロダクション	p.4
特別基調講演『日本の将来は危ないか?』	p.6
「B&G全国サミット」正副会長ご感想	p.11
事例発表「ミクロ・マクロ視点からみる公共施設の在り方」	p.12
全国指導者会からのお知らせ／第21回「B&G全国教育長会議」の報告	p.13
B&GフレンドシップPROJECT	p.14
優良センターアワード	p.15
10年連続特A評価獲得センター	p.16
20年連続特A評価獲得センター	p.17
共同宣言／閉会（挨拶：岸 ユキ様）	p.18
当日の様子	p.19
参加者アンケートの結果	p.20
第17回「B&G全国サミット」参加者感想	p.22
第17回「B&G全国サミット」出席者名簿	p.24

第21回「B&G全国教育長会議」

第21回「B&G全国教育長会議」の概要	p.30
主催者挨拶	p.31
「部活動の地域移行に関する現状調査」結果報告	p.32
「B&G全国教育長会議」正副会長のご紹介・ご感想	p.33
基調講演「地域部活動の新しい形の創出～『学校部活動』を新たな『地域コミュニティ活動』へ～」	p.34
事例発表①「佐渡市地域クラブ活動の取組」	p.35
事例発表②「海クラブ伊豆海洋クラブの取組」／スポーツ庁からの説明	p.36
当日の様子	p.37
第21回「B&G全国教育長会議」の提言	p.38
参加者アンケートの結果	p.39
第21回「B&G全国教育長会議」参加者感想	p.40

第17回 「B&G全国サミット」

『ミクロとマクロでみる公共施設の在り方』



2025年1月22日（水）14:00～

ベルサール東京日本橋（東京都中央区）



第17回「B&G全国サミット」の概要

『ミクロとマクロでみる公共施設の在り方』

1月22日、「第17回B&G全国サミット」をベルサール東京日本橋（東京・中央区）で開催。「ミクロとマクロでみる公共施設の在り方」のテーマに、日本財団笹川陽平会長による特別基調講演や首長による事例発表、優良センターアワードなどを行いました。

当日は全国45道府県から首長273人、副首長24人、教育長196人をはじめ、来賓、自治体関係者など約800人が出席しました。

●出席者割合（ブロック別の内訳）

	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州	合計
自治体数	32	49	35	30	58	34	37	21	33	31	360
首長	31	36	30	22	41	26	22	18	22	25	273
副首長	1	4	2	0	3	2	3	1	4	4	24
教育長	14	31	20	11	31	24	20	9	19	17	196
代理	1	1	0	4	9	4	7	1	3	0	30
随行	11	30	43	18	42	20	12	15	18	22	231
合計	58	102	95	55	126	76	64	44	66	68	754
三役合計	46	71	52	33	75	52	45	28	45	46	493

※来賓・マスコミ等除く

●タイムスケジュール

14:00	主催者挨拶
14:05	来賓紹介
第1部 14:10	イントロダクション
14:25	日本財団 笹川会長 特別基調講演 『日本の将来は危ないか?』
15:20	休憩（約20分）
15:40	サミット正副会長進行
15:50	事例発表① ミクロ視点 宮城県加美町
16:05	事例発表② マクロ視点 北海道大樹町
第2部 16:20	全国指導者会からの依頼事項
16:25	教育長会議の報告
16:30	B&GフレンドシップPROJECT中間報告 募集！来年度の財団助成事業等について
16:45	優良海洋センターアワード
17:05	B&G全国サミット共同宣言
第3部 17:15	閉会



●第1部

14:00～ 主催者挨拶

(公益財団法人B&G財団 会長 前田康吉)

01

主催者挨拶

公益財団法人B&G財団
会長 前田 康吉

第17回 B&G全国サミット

本日は、第17回「B&G全国サミット」を開催いたしましたところ、公務ご多忙のなか、全国379の海洋センター所在自治体から、総勢750名もの皆様にご出席を賜りました。主催者を代表し心より厚くお礼申しあげます。

また、ご来賓として、日頃からB&G財団に多大なご支援をいただいております日本財団 会長 笹川陽平様はじめ、多くのボートレース関係団体の皆様にもご臨席を賜り、

重ねて厚くお礼申しあげます。

笹川会長には、この後「日本の将来は危ないか?」と題した、特別基調講演を行っていただきます。大変お忙しい中、ご講演いただきますこと、改めて感謝を申しあげます。

さて、今回の「B&G全国サミット」は、「ミクロとマクロで見る公共施設の在り方」をテーマに開催いたします。

近年、人口減少や過疎化など、社会状況の変化による公共施設の統廃合が進む中、自治体の総合計画においても、機能や役割を見直す施設を多く抱えているかと思います。

本会議では、社会体育施設である海洋センターに新たな設備と機能を追加しアップデートした事例と、海洋センターを「移設」し、自治体の実情や総合計画に沿った役割を新たに加えた事例について、それぞれ首長様から発表をいただきます。各自治体においてB&G海洋センターが果たせる役割について、今一度考えて頂く機会にしていただければと考えております。

おわりに、B&G財団は、多様化する社会課題の解決に向け自治体の皆さんと共に考え、さらなる地域の発展のため、「青少年の健全育成」と「地域活性化と地方創生」を理念とし、これまで以上に多岐に渡る事業を全力で邁進していく所存です。

また、「能登半島地震」で被災し、復旧・復興に取り組む自治体の皆様に寄り添い、引き続き、海洋センター所在自治体、B&G指導者のネットワークがあるからこそできる支援を継続してまいります。

本日ご出席の皆様には、引き続きのご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげ、挨拶とさせていただきます。



14:05～ 来賓紹介

02

来賓紹介

第17回 B&G全国サミット

・日本財団	会長 笹川 陽平 様
・日本財団	理事長 尾形 武寿 様
・日本財団	専務理事 笹川 順平 様
・日本財団	常務理事 佐藤 英夫 様
・B&G財団評議員	岸 ユキ 様
・B&G財団評議員	谷川 真理 様
・B&G財団理事	佐野 慎輔 様
・B&G財団施設整備委員会	小林 元一 様

※その他、多くのご来賓の皆様にご出席頂きましたが、会議中での紹介は以上とさせて頂きました。

14:10～ イントロダクション

イントロダクションに移る前に、先日青森県を中心として発生した豪雪災害に対する災害支援活動についてご紹介しました。

はじめに地方創生部防災推進課の藤江より、防災拠点事業の説明および今回の支援に至った経緯をお話しし、その後、支援を受けた被災地である青森県平川市須々田教育長より、当時の被災状況および支援の内容についてお話をいただきました。



須々田教育長は、年末から年始にかけて記録的積雪による豪雪災害が発生し、B&G財団を通じて「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築」事業で重機を配備している、秋田県男鹿市と岩手県久慈市に協力を要請。両市から重機とオペレーターの職員7名が派遣され、1月9日から3日間、学校や集会所など公共施設の除排雪作業が実施されたことを報告し、今回の一連の災害支援についてお礼を述べました。



●須々田教育長からの報告

当市のある青森県津軽地方では、年末年始にかけ、記録的大雪となり、1月4日付で災害救助法の適用を受けました。

短期間のうちに記録的大雪となったことから、除排雪業者は生活道路の除排雪作業も追いつかず、交通は麻痺し、市民生活にも影響が生じる状況でした。

そのような中、1月7日にB&G財団様から災害支援についてご紹介を頂き、翌日の1月8日には秋田県男鹿市様、翌々日の1月9日には岩手県久慈市様より、油圧ショベルとスライドダンプを派遣していただきました。また、重機に併せて除排雪作業を行うオペレーターも計7名ご派遣頂き、除排雪支援をいただくことになりました。

県外からの支援でしたが、翌日には重機とオペレーターが駆け付けてくださいり、支援の速さには、大変助かりました。両市からの派遣職員の皆さんには、学校や集会施設等の公共施設の除排雪作業を行っていただきましたこと、心より感謝を申し上げます。

その後は、降雪も落ち着き、市民生活も日常に戻りつつあります。

この度のご厚意に、平川市民を代表し、心より御礼を申し上げる次第であります。
誠にありがとうございました。



イントロダクションでは、今回のサミットテーマである『公共施設の在り方』に則り、第2部の『事例発表』に関連した、海洋センターハード整備の助成事業を先がけて紹介しました。

●海洋センター修繕助成制度（事例発表の加美町・大樹町ともに当制度を活用）

当制度は、経年劣化により老朽化した施設の機能保全やバリアフリー化などの機能向上を目的とした修繕に対して、その改修費用の一部を助成する制度で、今回はメニューごとに説明しました。

まずはこれ！

①通常修繕

対象	体育館	プール	駐車	助成率上限
特A～D	3,000万円	3,000万円	1,000万円	特A：70%以内 A：60%以内

原状復帰





多機能化





本当は使いたくない…

②災害復旧修繕

対象	体育館	プール	駐車	助成率上限
特A～D	3,000万円	3,000万円	1,000万円	保険対象額 70%以内

台風の影響




雪の影響




地震の影響




通常修繕では行えない改修に！

③特別施設整備

対象	体育館	プール	駐車	助成率上限
特A～D	3,000万円	3,000万円	1,000万円	50%以内

建て替え



移設



用途変更



+ソフト事業も支援！

④艇庫特別措置

対象	艇庫	助成率上限
特A～D	5,000万円	50%以内







宮城県加美町はこちらの助成制度を活用！

最高額！

⑤プール特別措置

対象	プール	助成率上限
特A	1億円	80%以内





北海道大樹町はこちらの助成制度を活用！

読みます

⑥10/15年連続特A優遇措置

大規模改修

連続特A	海洋センター（艇庫・プール・体育館）	助成率上限
10年	3,000万円	80%以内
15年	5,000万円	80%以内

※海洋センター各1回限り

02 次世代型艇庫事業

事業のしくみ

今まで
艇庫＝貯蔵庫
艇庫＝海

だけではなく！

次世代型艇庫

ハード改修
「艇庫特別措置」
で実現改修

上限
5,000万円
まで助成対象

ソフト改修

約200万円×2年

艇庫改修
艇庫改修
艇庫改修

艇庫にどちらか良い
艇庫改修

民間主体などで各種事業が可能となり、競争活動の質や幅が広がる！

事業1 横浜市鶴見区立鶴見海洋センター

海レクリエーションならびに、自然や環境など文化的充実度、海学校の充実度等で評価され、Sランク（Sマーク・マジックマーク・海のまちさくら賞）

事業2 熊本県東筑摩町＆高鍋町海洋センター

子どもたちや地域住民が海の活動に引き込まれてもらおうと、海学校の充実度、海学校の充実度等で評価され、Sランク（Sマーク・マジックマーク）

事業3 千葉県夷隅郡山田町の海のまちセンター

海のまちや海をめぐる様々な課題を一緒に解決してもらおうと、既存の代用施設に取り組んでおり、Sランク（Sマーク・マジックマーク）

14：25～ 特別基調講演 『日本の将来は危ないか？』
日本財団 会長 笹川 陽平 様

以下、笹川会長の基調講演内容全文です。



ご紹介賜りました日本財団の笹川陽平です。

私は年に1回皆さんにお話しする機会があるだけで、他にはこのようにお話しする機会ありません。それはトラウマがあるからです。父が元気な時分、私が29歳になった時でした。そろそろ奥さんを貰いたいと思い、父に相談したところ「俺は女性の専門家だ。素晴らしい女性を見つけるから3年間待て」と言われました。待てども父からは連絡がなかったのですが、3年という約束の途中で進捗は聞けないものですから、3年経って「お話はどうなっているでしょうか」と尋ねたところ「自分の嫁くらい自分で探せ」と言われ、3年間棒に振りました（笑）そして、友人の紹介ではじめて写真を頂きその方と結婚しました。従いまして、私は人を説得するのに欠ける人間であるというトラウマが生じ、他人を説得したりするのが不得手で皆さんの中に響く話が出来ないことをご了承下さい。しかし前田会長や菅原理事長から「年に1回くらい奉仕せよ」とこの講演はお受けしています。

1973年にB&G財団が設立され、既に52年が経ちました。長きにわたり素晴らしい活動をしていただいているのは有難いことだと思います。中にはご承知の方もいらっしゃるかと思いますが、戦後国民体育大会のような大きな行事をするために、全国の大都市に年に2～3回しか使われないスタジアムが沢山出来ました。その時笹川良一はドイツを訪問し、アーベル・ベック・オリンピック委員会専務理事と会い、アーベル・ベック専務から「大競技場も必要だが、これからは地方で活躍する子供や大人の健康維持ための施設を作ることが重要であり、コミュニティを重視した施設が必要です。いわばクラブ単位のものを作るべきです」という助言を頂きました。そして、失礼かもしれませんのが、当時建設予算のつかない地方自治体の皆さんとのところにそうした施設を作ろうと始まりました。

あれから50年経過し、今や世の中はどのように変わったのでしょうか。学校における体育の在り方、学校を中心としたスポーツの在り方が急速に変わりつつあり、それぞれの地域でクラブ活動としてやる



のが良いのではないかと変わりつつあります。B&G財団は50年先取りして、皆さんから永続的な協力を頂き、今まで参りました。本当にすごいことだと思います。日本のスポーツの在り方を50年かけて皆さんに変えてくださいました。当時建設決定には苦労しました。施設を作るとなると「法律上何ヶ所だけ」と言われ、そのたびに役所詣でをし「あと10ヶ所」「あと15ヶ所」と2年おきにお願いをしていました。当時は国会も難しい時で共産党の方が、ここに共産党の方がいれば手を上げてくださいね(笑)常に反対していましたが、ある時九州の有力市の共産党幹部の方が来て「笹川さん、私の町に作ってくれませんか」とおっしゃりました。私は「正気ですか。あなたの党は反対しており、民主集中制のあなたの党で中央委員会の方針に反対したら除名されますよ」と申し上げましたが「除名されても子々孫々のためにやりたいのです」とのことでしたので、そこの市に施設が完成しました。ある時、もっと大規模に建設したいと、午前6時に田中角栄先生の自宅に陳情に参りました。未来を背負う子供の体育、知育、德育の大切さを瞬時に理解され、当時の小坂徳三郎・運輸大臣に電話され「大切な事業だから『当分の間』実施してくれ」と話をされた後「陽平君、役所との交渉は『当分の間』としなさいよ。太政官布告で現在使われているものもあるよ。しっかりやりなさい」と激励されたことも懐かしい思い出です。

こうしたこともあります。改めて50年先取りしてされたのは凄いことです。中村草田男氏の「明治は遠くなりにけり」は有名ですが、今や「昭和は遠くなりにけり」ではないでしょうか。今年は昭和100年です。「昭和も遠くなりにけり」という時代で、今や平成生まれの方が30歳代後半で日本の働き世代の中核となっています。私は昭和十四年生まれの86歳ですから化石人間のようなもので、ATMやスマホは使えず、良い時代に生かしてもらいました。これから30~40年先の時代を生きることはできません。昭和100年、えらい時代になりました。トランプという面白い大統領が誕生しました。メディアで色々書かれています。多くの方は懐疑的にご覧になっていると思います。私自身も懐疑的にみておりますが、しかし彼の話は分かりやすいですね。賛成でも反対でも明確で分かり易いです。言葉遊びのない新しいタイプの政治家ですね。

地球温暖化、気候変動の影響もあり、私が住む世田谷でも地域的集中豪雨が起こるなど今までなかったことが発生しています。温暖化でヒマラヤの雪も氷解しています。トランプ大統領がグリーンランドを買収すると言っていますが、グリーンランドは氷の厚さは平均約1700メートルに覆われ、面積は日本の約6倍になります。日本がよく探検に行く南極大陸の氷とグリーンランドの氷が溶けると世界の海面が約7メートル上昇すると言われています。そうすると日本の工業地帯は水面下に入ります。こうした危険な状況です。また、海水温が1度違うだけで魚が大移動します。10年前にブリティッシュコ



第17回「B&G全国サミット」

ロンビア大学と記者会見をしましたが、日本沿岸の海が酸性化することで甲殻類が減少し、三重県のあこや貝やカキが取れなくなる可能性があると申し上げたところ当時は関心が集まりませんでしたが、今や大きな問題になっています。石川県ではブリは1匹10万円程度していましたが、温暖化の影響でブリが石川ではなく北海道でとれるようになりました。しかし北海道では食べ方が分からぬのでブリが最初は500円でした。一度温度が変わっただけでも魚は移動します。私もコロナを罹った時に体温が一度上がりましたが、ベッドから出るのがだるくなりました。海の生物はもっと敏感ですから、影響は大きいでしょう。日本の誇る食文化についても、日本人が長生きする理由は魚を食べていると言われています。しかし世界の人が食べ始める中、日本の漁業は衰退しており、今我々は日本近海の環境モニタリングを青年漁業者と始めるところです。

少子化と高齢化の問題、地方過疎化の問題、鉄道が無くなる心配など日常のように出てきています。人口減少は当然です。20年後の日本を予測すると、GDPで世界の20番目くらいとなります。今は世界第4位ですが、インドネシアやインドが伸長し日本の順位は落ちていきます。人口も減り、年寄りが増え子供が少なくなるという現実が迫っているにもかかわらず、日本は平和であるかのように皆過ごしています。世界から見ると不思議で、世界の中においては、ガザ、ウクライナの次に最も危険なのは日本ではないかと言われています。中国と国境を接し、ロシアは北海道に食い込み、近くに北朝鮮がいます。台湾海峡に有事があれば、中東からの油はマラッカ海峡から台湾海峡を通って入ってきますから、日本の安全保障上重大な問題です。従いまして、なぜ日本人はここまでんきなのか外国人にとって不思議なようです。

では何故日本は平和なのでしょう。皆さんのお手元に正月に掲載された私の「正論」を配りましたが、本当に日本は独立国家なのでしょうか。日本国憲法は施行当時から変わっていないという意味では世界で最も古い憲法です。この憲法の前文には「日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」とあります。諸国民の信義を80年間信頼してきたんです。諸国民には中国、北朝鮮、ロシアが入っています。信頼するのでしょうか。無防備に、我々は平和をむさぼっている状況です。こうした状況は外国の知識人から見ると「日本人はおかしいのではないか」「自国を自国で守る覚悟があつての独立国家だろう」というもので、これが世界の常識です。世界の常識は日本の非常識、その逆もありますが、世界の常識に反した非常識な状況が日本にあるのです。

独立国家の要件はいくつかあります。まず、自主憲法があるか。どうでしょうか。国軍のない独立国家



はコスタリカなどごく一部です。スパイ防止法はどうでしょうか。最近様々な企業がやられていますが、サイバー対策はどうでしょうか。日本の武器の製造能力はどうでしょうか。頭が痛くなります。これで日本は独立国として、隣に中国とロシアに挟まれ、北朝鮮は恐ろしい武器をもっています。こうした状況で日本は独立国として2000年の歴史があると言っていていいのでしょうか。私は思想的に右・左とは言っておらず、独立国の条件を申し上げているだけです。東京の制空権の一部は米軍が握っていて日本にありません。だから大阪から東京に来るときは九十九里の方に飛行機は迂回します。

なぜこのようなことになっているかと言えば、皆さんに本を配りましたが、最初のページに書きましたが、昔は「輿論」という言葉がありましたが、戦後「輿」が当用漢字から外れたため、単に「世論」となってしまいました。総理が誕生すると世論調査をして支持率の話となります。世論調査は国民が持っている感情、その時の気分なのです。国民が見た感情です。そのパーセンテージで日本国家を運営していいのでしょうか。国民には権利と義務があります。戦後はいわゆる権利の主張ばかりが繰り返されてきて、国民としての義務がないがしろにされて80年やってこれたのは運が良い話です。日本国が独立国として努力して作り上げたわけではありません。幸運にも80年間は平和の迷妄を信じてきたのです。迷妄とは事実でないことを事実のように思うことです。ではどうするのか。

かつて日本には覚悟をもって庶民や国民を説得した人がたくさんいました。ご承知の通り、財政破綻を起こしたときに努力した上杉鷹山。軍の力が強くなった時に国会の中で肅軍演説をした斎藤隆夫。彼は国會議員を除名されましたが「いうべきことを言わなければならぬ」とやりました。長岡市にも素晴らしい人がいました。戊辰戦争でコテンパンにやられる中で、親しい藩から米100俵が配されました。皆飢えており、いつその米が配給されるのか待ちわびていたところ、小林虎三郎は「百俵の米も、食えばたちまちなくなるが、教育にあてれば明日の一万、百万俵となる。次の世代のために我々が進んで犠牲にならう」と諭しました。明日の食事がない中で教育を通じた将来の人材育成に賭ける人がいたのです。

私も東京大空襲の生き残りであります。その時分笹川良一は国會議員でした。軍神・山本五十六元帥は「日米開戦に至らば我が目指すところもとよりグアム、フィリピンにあらず、はたまたハワイ、サンフランシスコにあらず。實にワシントン街頭白亜館（ホワイトハウス）上の誓いならざるべからず。当路の為政家、果たしてこの本腰の覚悟と自信ありや」という手紙を笹川良一に書いています。永井柳太郎がそれを国会で読み上げたときに国会はしんとなりました。

世論は国民の感情や雰囲気で良い、悪いを言います。しかし、「輿論」というのは、ここにお集まりの



第17回「B&G全国サミット」

指導者のような人が「このままではだめだから、こうすべき」と国民が分からず将来の展望を見抜き、「地域を活性化するために自分のことを聞いてほしい」と発言することであり、それを「輿論」と言います。しかし今の政治指導者は国民の願いをかなえることが政治だと思っています。今は世論に左右されていますが、それでは國は持ちません。ここで、皆さんにお願いしたいことは「輿論」です。皆さんの声をどう住民に理解させるかだと思います。

かつて明治4年に廃藩置県がありました。徳川300諸侯がありました。小さな藩もありましたし、生活は貧しかったかもしれません、人材教育に力をいれていきました。貧しくても徳川幕府に言われれば人足を出して江戸の開発のために尽くさなければならぬ時代です。いまだに東京に各藩の寄宿舎の名残がわずかですが残っています。だから、当時の方が、というと失礼かもしれませんが、指導者はリーダーシップをもって、藩の誇りのために若者を教育して「我々は我慢しようとも、貧しくとも、礼節を重んじ國や名誉のために」と人材教育をしてきました。

果たしてお金があればなんでもできるのでしょうか。日本は1300兆円の財政赤字を抱えています。世論に従った結果、このような借金を抱えている国は日本しかありません。政治家は「このままでは日本はダメになる」と、自分自身を捨てて、日本をどうするかを主張し、嫌われたら辞める覚悟がないのでしょうか。皆さんは世論の代表ではなく「輿論」の代表です。言いにくいことをと言い、嫌われてもいいじゃないですか。みんな天国に行くのですから（笑）しかし、私は下に行きます。なぜなら友人は皆地獄に行ったと思うからです（笑）

今日のキーワードは「輿論」です。皆さんは輿論の代表者ですから。人生一回です。皆さんにとって怖いのは奥さんだけです（笑）市長、町長、村長の皆さん「良薬は口に苦し」ですが、皆さんの情熱あふれる説得は必ず理解されると思います。地方で将来を背負う子供たちに自信をもって成長してもらえるB&Gの施設になってほしいと同時に、皆さんからお話があれば日本財団は真摯に話を聞いて協力します。全て協力できるわけではありませんが、今日お話しした以上責任がありますので、こうした仕事をしたいとあれば、日本財団にお申し付けください。

52年にわたり1つの事業が発展し、今や災害対策までしっかりとされています。国際社会の現在の流行り言葉は「継続性」です。B&G財団は52年前からやっています。素晴らしい伝統であると確信しております。皆さんの日常の努力に感謝と敬意を表すると同時に、申し出は受け付けておりますので日本財団を活用ください。本日の会議が有意義なものになるように祈念しております。



15：40～ 第2部開始

第2部からは「B&G全国サミット」の会議規則に則り、昨年度会長・副会長に就任されました3名の首長様に、今年度も引き続き会長・副会長を務めていただきました。

下記は、会議終了時に感想として述べられた内容を掲載します。



会長 福井県大野市
市長 石山 志保 様

B&G財団の皆様におかれましては、日頃から時代の最新の情報に触れながら、私どもの現場を大切にしたタイムリーな内容のサミットを毎回、毎年開催していただけることに、本当にありがとうございます。何よりも多くの方々にお集まりいただきいて、頑張る首長の皆様、教育長の皆様、そしてB&G財団に関わる皆様のおかげであり、今日は参加できてよかったですと心から思った次第であります。

また、日頃からたくさん事業メニューを取り組まれており、今後ともB&G財団の皆様、また日本財団の皆様においては、末永く私たちの支援をお願いしたいと改めて感じました。



副会長 熊本県南関町
町長 佐藤 安彦 様

今回のサミットでは、「ミクロとマクロで見る公共施設の在り方」をテーマとして、宮城県加美町と北海道大樹町から事例発表をしていただきました。ミクロとマクロの両視点からの、海洋センター施設における取り組みの事例発表を聞くことができ、大変参考になりました。

また、笹川 陽平 日本財団会長の特別基調講演では、「日本の将来は危ないか?」という演題により、笹川会長の青年時代のエピソードから始まり、その後の社会貢献活動におけるグローバルな視点からの哲学や考え方など、笹川会長ならではの経験に基づく話を直接伺えたことは、大変貴重な機会でした。地域の課題を単に地域内の視点のみからではなく、グローバルな視点で捉え直すことで、新たな解決策を見出す貴重なヒントを得ることができました。

結びに、本サミット関係者の皆様に心より感謝いたしますとともに、B&G財団ならびに関係自治体の更なるご発展を祈念いたします。



副会長 長野県白馬村
村長 丸山 俊郎 様

10年連続、20年連続で特Aを取得され表彰されました自治体の皆様、誠におめでとうございます。

また、事例発表等でご登壇いただきました皆様に改めて感謝を申し上げます。施設更新ですけれども、昨今の物価高騰もありまして、どこの自治体も大変な状況であるかと思いますが、そんな中、今回の事例発表を伺いまして、工夫の仕方次第、またB&G財団等のご支援をいただきながら、青少年そして住民の皆さんの健康増進やスポーツ、教育の場の醸成、そして機会の創造のためには必要な取り組みであり、引き続き力を合わせていく必要があると改めて感じた次第であります。

また、復興に関して、事例の発表や自治体の現状を伺わせていただき、やはり支え合いが大切だと改めて感じました。本日ご参加いただいている皆様には引き続きのご支援を私からもお願い申し上げまして、本日の感想とさせていただきます。ありがとうございました。

事例発表

宮城県加美町 石山敬貴町長、北海道大樹町 黒川豊町長、両名から、財団事業の「修繕助成制度」を活用し、社会体育施設である海洋センターに新たな設備と機能を追加しアップデートした事例発表がありました。

近年、人口減少や過疎化など、社会状況の変化による公共施設の統廃合が進む中、自治体の総合計画においても、機能や役割を見直す施設が多くあります。

今回の事例では、加美町の修繕事例をミクロ、「障がい者」に着目した施設づくり、大樹町の修繕事例をマクロ、「総合計画」の体現化を目指した施設づくりと位置づけました。

人や地域の特徴、構成する空間等のそれぞれの「個」に焦点を当て、公共施設が地域にどのような影響を与えていたかをミクロ視点で考え、地域全体からみた海洋センターのポジションに着目し、広範な役割や長期的な持続可能性等を追求する必要性をマクロ視点で考えました。



15:50～ 事例発表①『ミクロ視点（障がい者）からみる公共施設の在り方』 宮城県加美町 町長 石山 敬貴 様



宮城県加美町 町長
石山 敬貴 様

加美町中新田海洋センターは、障がい者への自然体験活動の提供とパラスポーツの拠点化を目的に、「修繕助成制度（艇庫特別措置）」と「次世代型海洋センター艇庫を活用した地域の魅力創生」事業を活用。多目的室の拡張及び事務所・キッズルームを増築し、施設の全面バリアフリー化を図りました。

施設改修をきっかけに、障がい者と健常者のインクルーシブカヌー体験会をはじめ、車いす・白杖体験等を通じて障がい者への理解を促進するインクルーシブスクール、指導者を対象としたパラカヌーサポート研修会を実施するようになりました。このほか防災キャンプや俳句の会、空手道教室、ダンス・ヨガスクールなどを実施し、障がい者を含む幅広い世代や団体を巻き込んだ活動が展開できるようになりました。利用者も改修前と比べて倍増しました。

また、日本パラカヌー連盟や社会福祉協議会、宮城県カヌー協会、大崎地区広域行政事務組合消防本部、観光まちづくり協会等との連携体制を強化することで、アウトドアや観光面での活性化、交流人口の増加にもつながっています。

石山町長は、「障がい者に着目した「艇庫」という公共施設の改修により、施設の価値が高まり、加美町の共生社会の実現に寄与しています。」と述べられ、今後も、「艇庫を障がい者スポーツの拠点として県内外に周知し、インクルーシブな施設運営に努め、自然体験を通して共生社会の実現を目指していきます。」と結びました。

16：05～ 事例発表②『マクロ視点（町総合計画）からみる公共施設の在り方』 北海道大樹町 町長 黒川 豊 様



北海道大樹町 町長
黒川 豊 様

大樹町海洋センターは、第5期総合計画に基づき、町民の日常的なスポーツ活動の推進のため、それぞれの年齢や体力に応じたスポーツに親しめる場の拡充を図ることを目的に「修繕助成（プール特別措置）」を活用し、上屋付プールから屋内温水プールへの建替えを行いました。

整備にあたり、利用者の8割が小学生であることから、スマート街区区域内の小学校の隣接地に移設し、木質バイオマスボイラーの熱源をプールだけでなく、小学校、生涯学習センターで利用することとしました。

移設後、利用者は改修前と比べ7割増加。放課後にプールを利用してバスで下校する児童や水中ウォーキングなどに通う大人の利用者が増えました。

黒川町長は、「今後、このプールを拠点の一つとして、第6期総合計画に掲げる「誰もが学び続けられるまち」を目指し、子どもから高齢者まで、誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動の機会拡充に努め、健康増進を図っていきたい」と強調しました。

16:20～ 全国指導者会からのお知らせ

B&G全国指導者会では、「指導者の可能性は無限大」であるという思いで、水辺の安全教育や、自然体験を通じた郷土教育など、様々な事業の展開を行っております。

つきましては、B&G全国指導者会 会長として、記載の3点につきまして、B&G所在市町村執行部の皆様に切にお願いしたいと考えておりますので、何卒ご理解・ご協力を願い申しあげます。

【依頼事項】

(1) B&G 指導者の定期的な養成

B&G 指導者養成研修への定期的な人材派遣をお願いいたします。

(2) 海洋センター活動の把握と理解

海洋センター業務のより一層の把握とご理解をお願いいたします。

(3) B&G 指導者への激励

日々現場で奮闘するB&G 指導者に是非激励の言葉掛けをお願いいたします。



B&G 全国指導者会 会長
青森県南部町 町長 工藤祐直 様



16:25～ 第21回教育長会議の報告



B&G 全国教育長会議 会長
兵庫県養父市 教育長 米田 規子 様



去る11月22日、昨年度ご好評いただいたテーマである「部活動の地域移行」を、参加者からの熱いご要望にお応えし、この度「第2弾」として取り上げ、「部活動の地域“移行”から“展開”へ！～指導者の確保は改題解決につながるのか？～」をテーマとして、第21回「B&G全国教育長会議」を開催いたしました。今回は全国45道府県から222名の教育長を含む、自治体関係者総勢295名が出席されました。

会議では、長野県飯山市の代田昭久前教育長にご登壇いただき、ご自身の経験も踏まえながら、「部活動の地域移行」が進まない理由について、ご講演いただきました。

また、事例発表として新潟県佐渡市の香遠教育長にご発表いただきました。他にも、B&G海洋クラブの実践事例や、スポーツ庁からは部活動の「地域移行」を「地域展開」へ名称変更するなど、今後の方針について説明がありました。

本会議を通じて、従来の指導者観を刷新し、地域のスポーツ団体や文化活動団体などにご協力いただくことで、生涯にわたり子どもたちが多様なスポーツや文化活動に親しめる環境をつくっていくことが重要であると再認識することができました。今回の教育長会議では、子どもたちの将来の選択肢を減らさぬよう、「多様な活動ができる環境の整備」を提言し、参会の皆様の賛同により採択いたしました。ぜひ、本日ご出席の市町村長様、教育長様におかれましても、ご賛同いただき、ともに推進して頂ければと思います。

また、本教育長会議は毎年タイムリーなテーマが設定され、内容の充実度から年々出席者が増えている満足度の高い会議となっています。まだご出席したことがない教育長様は、ぜひ一度お越し頂き、ともに考えていくべきです。

16:30～ B&G フレンドシップPROJECT

B&G財団常務理事の朝日田智昭から能登半島地震被災地支援について説明しました。遊び場を失った子どもや障がい児をはじめ、震災で家族を亡くしたご遺族、高齢者施設で働く女性従業員、仮設住宅団地で生活する高齢者を対象とした支援など、これまでに実施した被災地支援活動について報告しました。



続いて、穴水町教育長の大間順子様より、震災から一年が経過した状況について報告。遊び場を無くした子どもや障がい児のための「プレイパーク」や「スポレクチャレンジフェスタ」など、これまで実施した被災地支援活動に対するお礼が述べされました。

●大間教育長からの報告



石川県穴水町教育長 大間 順子 様

1年前の元日に起きた震災は、最大震度6強、死者42名、負傷者258名、被害住家3,340棟と、人口が8,000人に満たない当町におきまして、町政始まって以来の大災害となりました。被害の凄まじさは皆さんもテレビや新聞などでご存じだと思います。現在、避難所は無くなり、532個の仮設住宅で生活しながら、自宅の修繕、再建を目指して、自分の生活を取り戻すため、町民の皆さんは前を向いて頑張っています。

住宅の公費解体が進み、震災前から一変した町並みを眺めると少し寂しさも感じますが、これも復興の第一歩であると前向きに捉え、素晴らしい未来の穴水を思い描いております。

さて、町の宝であります子ども達ですが、発災当初、学校施設が避難所となって学校の再開が出来ない状況になり、町外へ避難する子ども達も多くいました。その中で1月17日には、中学3年生で教室とオンラインのハイブリッドの授業を再開。被災した穴水小学校児童も、中学校の校舎を間借りして授業を再開し、比較的被害の少なかった向洋小学校では、町内の民間保育所が間借りし、保育園児と小学生が一緒に過ごし、給食は支援物資や炊き出しという、普段では考えられないような体験をしながらも、みんなで協力しながら、なんとか学校生活を送ってまいりました。昨年9月によくやく、穴水小学校の仮設校舎が完成し、児童は8か月ぶりに自分達の校舎で授業を再開いたしました。向洋小学校に間借りしていた保育所も、元の施設の修繕が終わり戻ることができ、約1年間を要しましたが、それぞれの学びの場で学校生活を送ることができますようになりました。

そんな過酷な状況でありながら、穴水の子ども達は元気よく、今では笑顔で学校に通っております。そこまでにはB&G財団の皆様による支援事業として「がんばろう能登半島！B&Gプレイパーク in 穴水」では、遊び場やたくさんの支援物資を提供いただき、きめ細かに多くの支援をいただいたことがあります。被災によって遊ぶ場所が少なくなった子ども達は、能登では見たことない大型遊具を使ったイベントのほか、プロスポーツ選手との交流などの機会をいただき、今までにない素晴らしい経験をさせていただいたことで、悲しい地震の記憶から、楽しい思い出が増えています。こうしたB&G財団の皆様をはじめとする、全国のB&Gの仲間の支援があったからこそ、私たちは応援してくださる皆様の勇気と元気をもらい、頑張ることができます。ありがとうございます。

私たちの復興は、まだまだ始まったばかりです。どうか能登半島を忘れず、これからも相も変わぬご支援とご協力を賜りますよう改めてお願ひいたします。皆様、本当にありがとうございます。



16:45～ 優良センターアワード

今回の表彰は、2023年度の年間評価において、「海洋センター利用者人数」、「財団事業の実施状況」、そして「指導員の配置状況」などを得点化し、運営が特に優れた「特A評価」の306センター、「A評価」の77センターを表彰いたしました。

本来ならば、優良海洋センターの皆様にご登壇いただき表彰を行うべきところですが、大変多くの表彰となりましたので、2023年度評価にて10年及び20年連続特A評価を獲得されたセンターのみの表彰させていただきました。特に、10年連続特A評価センターは、20自治体21海洋センターと非常に多く、アワードムービーを放映し、表彰にかえさせていただきました。

(参考) 海洋センター評価とは

B&G財団では、全国の海洋センターの現状を把握し、効率的な支援を行うため、2003年度から「海洋センター評価」を実施しております。

この評価は年1回、各海洋センターから提出された運営状況資料等に基づき、「海洋センター利用者人数」、「財団事業の実施状況」、「B&G指導員の配置状況」など、総合的に査定し、決定するものです。

特に顕著な実績があり、良好な海洋センター運営が図られている優良海洋センターを「特A」、続いて「A」「B」「C」「D」「E」までの6段階に分けて「評価」しています。(各評価の内訳は下記グラフのとおり)

「評価」を導入した2003年度当時は、「特A」の海洋センターは滝川市の1センターのみでしたが、首長様をはじめ行政執行部の皆様のご理解・ご協力により、2022年度評価では337センターへと大幅に向かっております。

グラフ：年度別各評価の内訳

(単位：センター)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023
特A	306	304	322	314	337	306
A	84	92	83	93	56	77
B	63	57	49	44	47	51
C	11	7	4	6	18	22
D	0	1	1	2	2	4
E	2	4	4	3	2	1
廃止	10	11	14	15	16	19



第17回「B&G全国サミット」

10年連続特A評価獲得センター（優良センターアワード）



自治体の紹介を兼ねたムービーを放映し、その後、対象自治体の首長・副首長様にご登壇いただきました。

放映したアワードムービー抜粋



皆様にご登壇いただいたあと、代表して、2023年度施設別利用者数人口比率で全センターのうち、第3位でありました、岐阜県富加町の渡辺町長に表彰状をお受け取りいただきました。

（プレゼンター：B&G財団 評議員 谷川 真理 様）

北海道小平町B&G海洋センター
北海道遠別町B&G海洋センター
北海道北竜町B&G海洋センター
北海道芦別市B&G海洋センター
北海道上富良野町B&G海洋センター
青森県平川市尾上B&G海洋センター（登壇なし）
岩手県洋野町種市B&G海洋センター
秋田県由利本荘市西目B&G海洋センター（登壇なし）
埼玉県吉見町B&G海洋センター
新潟県新潟市味方B&G海洋センター（登壇なし）
新潟県新潟市新津B&G海洋センター（登壇なし）
新潟県佐渡市小木B&G海洋センター
富山県富山市八尾B&G海洋センター
福井県坂井市丸岡B&G海洋センター
岐阜県中津川市福岡B&G海洋センター
岐阜県富加町B&G海洋センター
静岡県沼津市戸田B&G海洋センター
愛知県豊川市小坂井B&G海洋センター
滋賀県多賀町B&G海洋センター
愛媛県今治市朝倉B&G海洋センター
福岡県大任町B&G海洋センター（登壇なし）



20年連続特A評価獲得センター（優良センターアワード）



今回20年連続特A評価を獲得した、「広島県府中市B&G海洋センター」と「愛媛県愛南町御荘B&G海洋センター」の首長様にご登壇いただき、当財団会長前田康吉より表彰状をお渡ししました。



表彰状授与後、お二人より、20年連続特A評価を獲得した喜びのコメントを頂戴しました。以下は、そのコメントの内容です。



府中市 小野市長

この度の受賞にあたって非常に嬉しく、光栄に思います。これもひとえに、普段ご利用いただいている市民の方の愛情と施設を運営している職員の尽力の賜物だと思います。当施設は建設から48年経っており、現在、移設をして新しい施設を建設中です。

これもB&G財団のご援助をいただきながら建設を進めており、いよいよこの3月に完成、7月より本格的にオープンする予定です。まさに、今回のサミットテーマでもあります「利用できるから利用したくなる施設づくり」になるように努めてまいります。新しい施設になんしても、B&G財団の理念を引き継ぎ、さらに特A評価30年、50年と続いてまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

この度は、表彰賜り大変光栄に思っております。また、B&G財団関係者の皆様には、これまでにもハード・ソフト面から多大なるご支援いただき感謝申し上げます。本町は、これからも財団の様々な事業を積極的に活用し、まちを元気に、ひとを元気にしていく事業を展開していく予定です。引き続きご指導をよろしくお願ひいたします。本日は本当にありがとうございました。



愛南町 中村町長

第17回「B&G全国サミット」

17:05～共同宣言

「第17回B&G全国サミット」の「共同宣言」について、正副会長の皆様から、ご提案がありました。

●石山会長の発言

今回の事例発表や財団事業紹介の内容を含め、共同宣言は『誰もが「利用できる」から「利用したくなる」施設づくり』を提案します。

今回は、利用者のニーズやトイレ・スロープのような個別の視点、一方で、まちづくりや総合計画のような全体的な視点、両面から、海洋センターの在り方を模索しました。老朽化や人口減少による利用者減などから、休館や廃止せざるを得ない状況にある海洋センターもあることと思います。

しかし、長期的な観点や様々な視点から、施設を修繕、時には建替えや移設、大規模改修も検討しながら、それにちは、もちろん、B&G財団の助成事業を活用させていただき、地域住民がますます『利用したくなる施設づくり』を推進していくことが必要だと考えます。

海洋センターを始め、公共施設を取り巻く地域社会のニーズを汲み取り、付加価値をつけて、魅力的な施設にアップデートさせていきましょう。



◎以上の提案を受け、会場の賛同のもと、「利用したくなる施設づくり」を推進することが確認されました。

閉会（挨拶：岸 ユキ様）



笹川会長の基調講演「日本の将来は危ないか？」では、とても刺激を受けました。私は1年に1度は海外に行くようにしています。海外では、同じアジア系でも中国や韓国からの観光客が多く、日本という存在感が薄れているなと感じました。

また、これから時代の海洋センターについて、宮城県加美町からは、「誰でも一緒にカヌーを楽しめる拠点」、北海道大樹町からは、「利用者のために海洋センターを移動する」といった事例発表がありました。これから時代、フレキシブルな柔らかい考え方で海洋センターを運営していく姿勢を大変心強く思いました。

本日お集りいただいた自治体執行部の皆様、笹川会長の基調講演にもありましたが、前を向いて、しっかりと意見を述べもらいたいと思います。海洋センターが、住民のみんなが利用したくなる施設になることを願っております。

当日の様子



受付ロビー



事業紹介パネル



偉人マンガ立ち読みスペース



事業紹介カード



約800名の出席者



能登支援募金に
ご協力いただきました



主催者挨拶



自治体派遣研修生紹介



B&Gフレンドシップ
PROJECTブース



偉人マンガを
多くの方にお読みいただきました

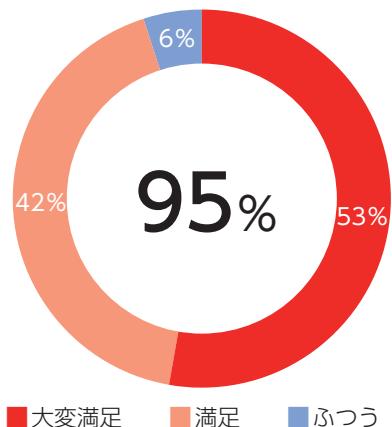


特別基調講演



お好きな色のバックを
お持ち帰りいただきました

参加者アンケートの結果



会議終了後に徴収したアンケート調査によると、今回のサミットの総合的な満足度として、回答者524名のうち、499名が「とても満足」(222名) もしくは「満足」(277名)と答えました。

特にプログラムの内容については、「笹川会長による特別基調講演」「事例発表」の順に満足度が高い結果となりました。

笹川会長のご講演を拝聴し、日本の将来を担う人材育成に向けて、熱量を持って教育を取り組んでいこうという姿勢に感銘を受けました。

また、事例発表を聴いて、先進的な取組に刺激も受けました。本市が抱えている教育課題の解決に努力したいと気持ちを新たにしました。

毎回、笹川会長のご講演に刺激を受け、勇気と元気ができます。

物事を根幹から捉える基調講演、今必要なテーマにそった実践事例、素晴らしかったです。



参加者からの声



財団の助成金を活用し、利用者がさらに使いやすくなるための施設のアップデート化をしていくことが大事だと学びました。

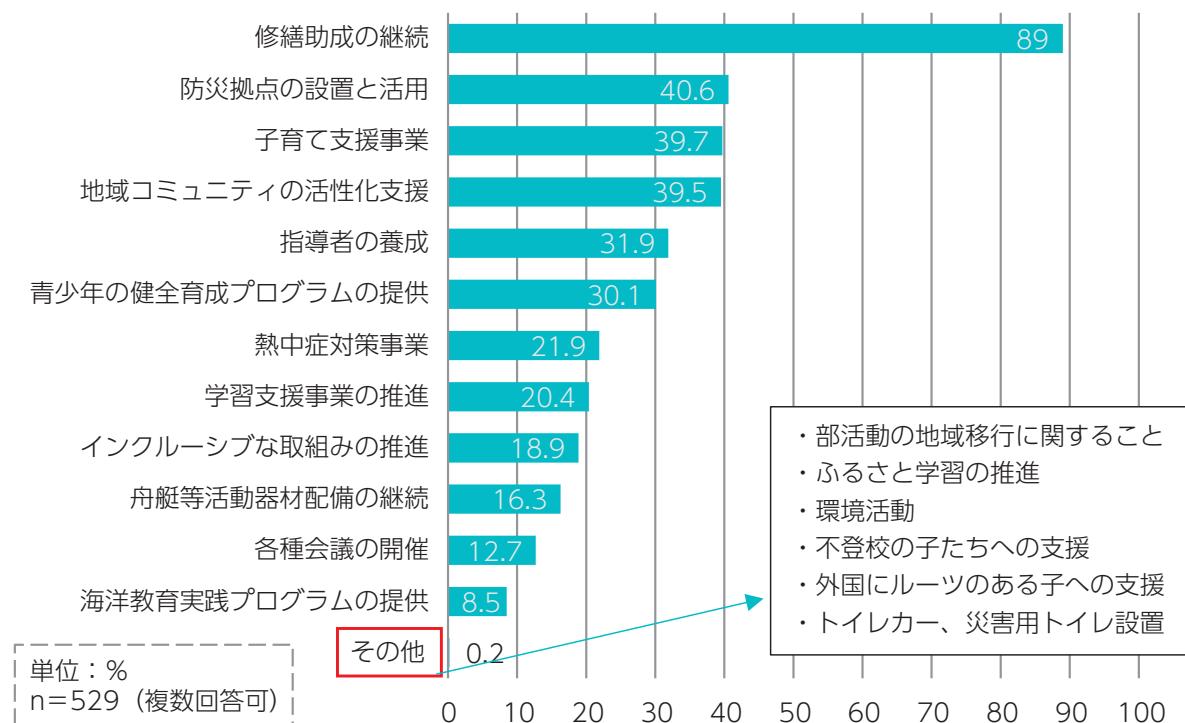
他の自治体がどういう取り組みをしているか、運営をしているなど分かり勉強になりました。老朽化した施設を今後どう維持管理していくか、状況を見つつ本市でも協議を続けたいと思います。

自治体が首長をはじめ関係者が一同に会する機会は貴重であり、全国規模で情報交換ができるため、非常に有意義です。

すべてにおいて完成度の高いサミットであったと思います。

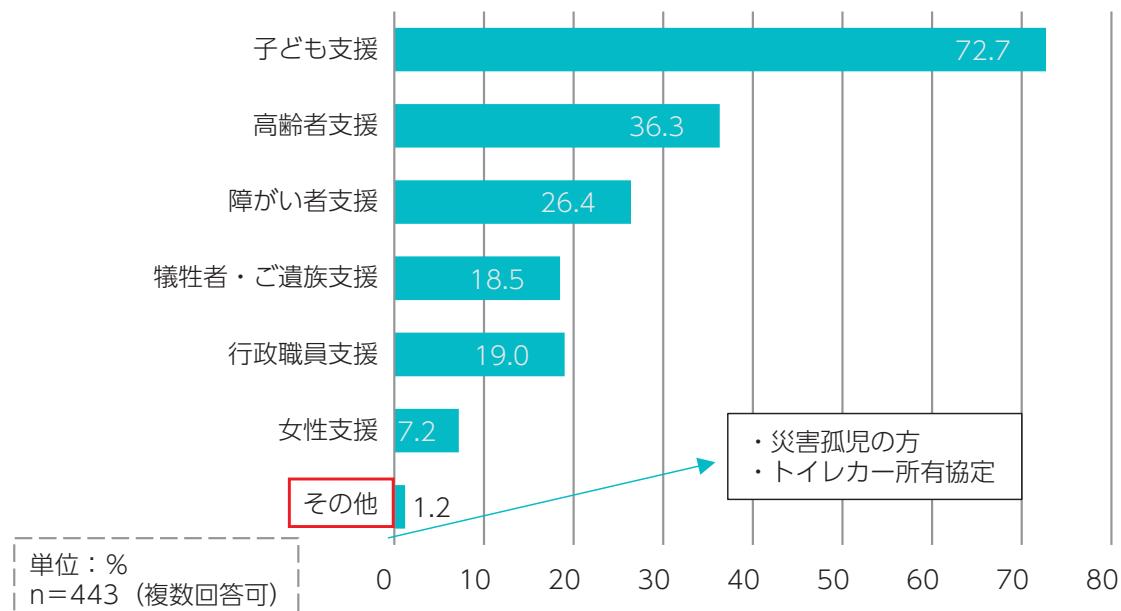
アワードがモチベーションアップにつながりました。

●参加者の皆様が、B&G財団に今後も支援を求めるものとは…



B&G財団では、「穴水町」「志賀町」「七尾市」への支援事業「B&GフレンドシップPROJECT」として1年間様々な支援活動を実施してまいりました。発災から1年が経過しても、被災地では息の長い支援を必要とされています。

●参加者の皆様が、B&G財団に今後の被災地支援で特に力をいれてほしい分野とは…



■サミット感想（抜粋）

○北海道 浦臼町 町長 川畠 智昭 様

笹川会長の世界の中の日本という視点からの重く深いお話にはじまり、非常に参考になる多くの事例発表。B&G財団の活動が海洋スポーツの振興から、地域活性化、防災・災害対応、子育て支援など、今回も含め財団の事業エリアが広がってきてていることが良く分かりました。

○北海道 鷹栖町 町長 谷 寿男 様

笹川会長の基調講演で自治体首長としての覚悟と指導力について再考する機会となりました。特に将来を見据えての少子高齢化の課題に向き合うための「輿論」形成に努め、子どもからシルバー世代まであらゆる世代が安心安全の生活環境で活躍できる町づくりに邁進いたします。

○北海道 苫前町 町長 福士 敦朗 様

B&G財団の様々な有意義な活動に対し、感謝申し上げますとともに、今後当町として健全なる青少年の育成に向けて全力を尽くさなければならぬと再認識をさせて頂きました。

○宮城県 川崎町 町長 小山 修作 様

理念、信念を持ち続け、職務を積み重ねることの重みをあらためて強く感じた基調講演でした。視点を絞った施設の改修、活躍には非常に興味深いものがありました。

○福井県 大野市 市長 石山 志保 様

時代の最新感覚に触れられることや、現場を大切にしたタイムリーな内容（施設のバリアフリーや統合・最適化、部活動地域移行、防災・被災地支援など）、頑張る首長や教育長、B&G関係者から直接お話を聞けることに刺激を受けてやる気が出ると毎年感じており、今年も参加してとても良かったです。

たくさんの事業メニューで私たちを支援いただきまして有り難く思います。B&G財団の皆様、日本財団の笹川会長はじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。

冒頭の導入動画、表彰自治体・首長紹介動画、バックミュージック、統一デザインでの説明資料投影など、凝った演出でとても楽しく気分が上がる内容でした。ご準備大変だったと思いますが、素晴らしいかったです。

笹川会長のお話を聞きしますと、気も身も引き締まります。

今年も喝を入れていただき有難うございました。

○長野県 生坂村 村長 藤澤 泰彦 様

今回もB&G財団様の多くの取組や支援等を把握することができました。また、笹川会長様の講演では、日本の将来を考えさせられ勉強になり、有意義な全国サミットでした。

○和歌山県 広川町 町長 横原 淳奈 様

こだわりのある演出、熱い思いが凄く伝わり大変勉強になったし、感動しました。人材の育成や、障害のある方への配慮など、多岐に渡り尽力していただいていることに感銘を受けました。当町にもご尽力いただいておりますことに感謝致します。また是非参加したいと思います。

○徳島県 那賀町 町長 橋本 浩志 様

このような機会を設けていただき、ありがとうございます。全国の市町村長や関係者の方々と話をできる機会はあまりないのでありがたいです。「継続は力なり」今後もお願いします。

○兵庫県 神河町 町長 山名 宗悟 様

笹川会長の基調講演の「日本の将来は危ないか?」について、特に印象に残ったのは「輿論」と「世論」の関係です。輿論は理性的な意見、世論は社会の気分や空気を反映した意見として、区別して使うのが本来情報あふれる今日こそ確度の高い情報に基づく輿論が欠かせないという講演は自分自身に勇気をいただきました。

○香川県 三豊市 市長 山下 昭史 様

毎回参加させてもらっていますが、笹川会長の講演は楽しませてくれる要素があり楽しみにしています。他自治体の事例も非常に参考になりました。

○鹿児島県 阿久根市 市長 西平 良将 様

笹川会長の基調講演は普段聞くことのできないお話で大変興味深いものでした。

また財団が計画する事業についても常に時代に即したメニューを考えいただき、本市においても今後検討していくかと考えています。

○北海道 新篠津村 教育長 荒谷 順一郎 様

笹川陽平様による基調講演は内容が明確で素晴らしいものでした。ありがとうございました。ミクロとマクロの視点を通して、これから地域づくりの方向性を確認することができました。

○岩手県 軽米町 教育長 小林 昌治 様

日本財団会長笹川陽平様の特別基調講演は、「日本の未来」「国としての在り方」について、熱い思いを改めて感じ取り、感激いたしました。700名を越える全国からの参加者に強い感銘を与えていただいた一時でした。普段から私たちが行っている様々な活動は、それらにいかに思いを込めて実践するか、継続していくかが重要であると再認識しました。二つの事例発表は、各々の地域の特色や課題に即した取組でした。前向きで建設的な取組の発表であり、どのような取組でもリーダーとしての在り方が重要であると改めて思ったところです。学びの多い研修となりました。

○群馬県 みなかみ町 教育長 田村 義和 様

日本財団の笹川会長のお話は、いつも日本人の誇りを思い出させ、勇気づけてくださるので、毎年楽しみにしています。御年86歳で演壇に走っていく姿を見し、それだけでも元気をいただき、自分も頑張らなくてはと思いました。

また、事例発表は本当によく取り組まれている例で、自分の自治体が少し恥ずかしくなりますが、これもまた頑張らなくてはと思わせられる良い刺激になりました。

○静岡県 川根本町 教育長 石原 一則 様

ミクロとマクロの視点から施設の在り方を考える機会をいただきありがとうございます。私たちの町でもミクロとマクロの視点をもって町の大切な財として大切にしていきたいと思います。

○島根県 西ノ島町 教育長 澤 純子 様

皆さんが前向きに活動している様子が伺え、改めて本町の活動を振り返る機会となりました。私どものような小さな自治体では大きな活動をすることは難しいかと思いますが、これからも他の自治体の情報を発信していただけるとありがたいです。

○高知県 津野町 教育長 久寿 久美子 様

笹川会長の講演はいつも心に響き人間としての力強さを感じます。B&Gの施設ひとつひとつが、目的意識を持ち、子ども達の成長、人間づくりの基となるように、大切に取り組むことを今日も深く感じました。今後とも私たちの心を動かす講演を継続してお願いしたいと思います。

「災害時」についての多様な事業報告、さらには熱中症対策についての特別支援事業に心が動きました。すばらしい全国サミットの内容、大変勉強になりました。

第17回「B&G全国サミット」

第17回B&G全国サミット出席者

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
北海道ブロック			
北海道	愛別町	町長	矢部 福二郎
		教育長	馬場 信明
	芦別市	市長	萩原 貢
		隨行	木村 智弘
	厚岸町	町長	若狭 靖
	石狩市	市長	加藤 龍幸
		隨行	市園 博行
	岩見沢市	市長	松野 哲
		隨行	岡 勇輝
	浦臼町	町長	川畠 智昭
		教育長	河本 浩昭
	枝幸町	町長	村上 守継
	遠別町	町長	國部 雅人
	大空町	町長	松川 一正
		教育長	関谷 正樹
		隨行	片山 樹弥
	長万部町	町長	木幡 正志
		隨行	川岸 謙司
	小平町	町長	関 次雄
	上富良野町	町長	斎藤 繁
	剣淵町	町長	早坂 純夫
	下川町	町長	田村 泰司
		教育長	古屋 宏彦
	積丹町	町長	松井 秀紀
		教育長	原 光宏
	斜里町	町長	山内 浩彰
		教育長	岡田 秀明
	新篠津村	村長	石塚 隆
		教育長	荒谷 順一郎
		隨行	窪田 秀幸
	砂川市	市長	飯澤 明彦
		教育長	高橋 豊
		隨行	中村 洋
	大樹町	町長	黒川 豊
		教育長	沼田 拓己
		隨行	薩田 祐一
	鷹栖町	町長	谷 寿男
	滝川市	代理	諫佐 孝
	秩父別町	町長	滝谷 信人
	苦前町	町長	福士 敦朗
		隨行	森 哲也
	名寄市	市長	加藤 剛士
		隨行	山田 透太
	沼田町	副町長	菅原 秀史
	東神楽町	町長	山本 進
		教育長	金谷 昭
	東川町	町長	菊地 伸
		教育長	杉山 昌次
	美幌町	町長	平野 浩司
		教育長	矢萩 浩
	古平町	町長	成田 昭彦
		教育長	三浦 史洋
	北竜町	町長	佐々木 康宏
		教育長	田中 佳樹
	室蘭市	市長	青山 剛
		隨行	今本 義隆
	和寒町	町長	奥山 盛
東北ブロック			
青森県	五所川原市	市長	佐々木 孝昌
		隨行	川村 康治
	鶴田町	町長	相川 正光
		教育長	山本 真規子
	東北町	教育長	長尾 誠治
		隨行	甲地 徳彥
	中泊町	町長	濱館 豊光
		教育長	鈴木 信也
		隨行	大川 幸世
	南部町	町長	工藤 祐直
		教育長	須々田 孝聖
	平川市	町長	船橋 茂久
		教育長	渡辺 伸一
	弘前市	市長	櫻田 宏

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
岩手県	弘前市	随行	柿崎 秀剛
	六戸町	町長	佐藤 陽大
		教育長	瀧口 孝之
	一関市	市長	佐藤 善仁
		教育長	時枝 直樹
	岩泉町	町長	中居 健一
		教育長	巖岩 千裕
		隨行	佐々木 真
	奥州市	副市長	小野寺 隆夫
		隨行	小野寺 海舟
	大船渡市	市長	渕上 清
		教育長	小松 伸也
	軽米町	隨行	富澤 武弥
		教育長	小林 昌治
	久慈市	市長	遠藤 謙一
		教育長	坂川 孝志
	花巻市	隨行	大石 智史
		教育長	宮澤 泰斗
	九戸村	村長	大久保 勝彦
	八幡平市	副市長	田村 泰彦
		教育長	佐藤 勝
	洋野町	隨行	佐々木 明子
		教育長	岡本 正善
	普代村	隨行	滝川 幸弘
		村長	坂本 保
	盛岡市	教育長	柾屋 伸夫
		代理	三船 雄三
	山田町	町長	藤村 茂克
		教育長	佐藤 信逸
	陸前高田市	副市長	石渡 史浩
		教育長	山田 市雄
宮城県	大崎市	市長	伊藤 康志
		隨行	後藤 裕司
	大郷町	町長	田中 学
		町長	石山 敬貴
	加美町	随行	浅野 仁
		町長	小山 修作
	川崎町	教育長	相原 稔彦
		隨行	村上 透
	栗原市	教育長	千葉 瞳子
		町長	村上 英人
	蔵王町	教育長	文谷 政義
		隨行	佐藤 武憲
	登米市	副市長	丸山 仁
		隨行	櫻田 俊介
	松島町	教育長	阿部 信広
		町長	内海 俊行
	涌谷町	教育長	遠藤 釧雄
		町長	柴 有司
	亘理町	町長	山田 周伸
秋田県	大潟村	村長	高橋 浩人
		教育長	三浦 智
	男鹿市	市長	菅原 広二
		教育長	鈴木 雅彦
	潟上市	隨行	渡部 公成
		市長	鈴木 雄大
	にかほ市	教育長	吉原 慎一
		隨行	宇瀬 順
	能代市	市長	市川 雄次
		教育長	須田 崇
	八郎潟町	町長	高橋 誠也
		町長	畠山 菊夫
	三種町	町長	田川 政幸
		教育長	武石 瞳
	湯沢市	市長	渕上 貴信
		教育長	秋山 正毅
	由利本荘市	隨行	藤内 大輔
		隨行	安藤 謙
山形県	酒田市	市長	矢口 明子
		隨行	樋渡 隆
	舟形町	町長	森 富広
		町長	村上 昭正
福島県	小野町	町長	

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
福島県	小野町	教育長	有賀 仁一
		随行	武藤 光
	田村市	市長	白石 高司
		教育長	飯村 新市
		随行	菅野 勝栄
	塙町	随行	宗像 樹
		町長	宮田 秀利
		教育長	秦 公男
	本宮市	随行	大龍 裕史
		市長	高松 義行
		随行	根本 淳史
茨城県	柳津町	町長	小林 功
		教育長	神田 順一
		随行	伊藤 沙樹
	関東ブロック	随行	増井 我久
		市長	谷島 洋司
栃木県	石岡市	教育長	岩田 利美
		市長	島田 幸三
	小美玉市	随行	比気 龍司
		副市長	近藤 廉一
	笠間市	随行	山本 裕巳
		市長	宮嶋 謙
	かすみがうら市	随行	由波 大樹
		教育長	湯原 深雪
	北茨城市	町長	知久 清志
		教育長	森田 恵美子
	五霞町	随行	菅原 未来
		市長	鈴木 周也
	行方市	随行	宮内 敏
		市長	宮田 達夫
	常陸太田市	教育長	滝 瞳美
		随行	川上 貴之
	八千代町	町長	野村 勇
		教育長	閑 篤
		随行	安江 薫
群馬県	鹿沼市	随行	松田 貴浩
		市長	松井 正一
		随行	斎藤 史生
		随行	直井 誠司
	さくら市	随行	安納 慎也
		教育長	橋本 啓二
	下野市	隨行	田代 宏
		市長	坂村 哲也
		教育長	石崎 雅也
埼玉県	那須烏山市	隨行	高橋 一巳
		市長	川俣 純子
		教育長	内藤 雅伸
	芳賀町	隨行	黒尾 明美
		市長	小井田 龍夢
	明和町	町長	大関 一雄
		隨行	齋藤 寶彦
		隨行	木村 貴虎
福井県	板倉町	町長	小野田 富康
		教育長	赤坂 文弘
		隨行	根岸 信之
	玉村町	町長	石川 真男
		隨行	和田 光彰
	みなかみ町	町長	阿部 賢一
		教育長	田村 義和
	白岡市	隨行	林 登紀枝
		町長	富塚 基輔
		隨行	牛久保 正和

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
埼玉県	吉見町	教育長	大澤 幸正
		隨行	関口 哲也
	嵐山町	町長	佐久間 孝光
		教育長	下村 治
		隨行	馬橋 透
千葉県	いすみ市	市長	太田 洋
		教育長	赤羽 良明
		隨行	久我 秀幸
	大多喜町	町長	平林 昇
		教育長	佐久間 靖夫
千葉県	御宿町	隨行	近藤 真弘
		隨行	小澤 直輝
		隨行	君塚 成利
	香取市	町長	原 宏
		隨行	鶴岡 孝一
千葉県	鋸南町	市長	伊藤 友則
		隨行	鹿野 愛美
	長南町	町長	佐藤 晃一
		教育長	白石 治和
		隨行	富永 安男
千葉県	成田市	町長	鈴木 亜貴子
		教育長	平野 貞夫
		隨行	糸井 仁志
	南房総市	市長	今関 裕司
		隨行	小泉 一成
千葉県	横芝光町	市長	日暮 美智子
		教育長	關谷 晃
		隨行	鵜澤 崇裕
	南房総市	市長	石井 裕
		隨行	佐久間 正博
新潟県	阿賀野市	町長	佐藤 晴彦
		教育長	實川 瞳子
		隨行	北田 勝也
	阿賀町	市長	加藤 博幸
		教育長	遠藤 佐
新潟県	糸魚川市	市長	米田 徹
		隨行	磯貝 恭子
	佐渡市	市長	渡辺 竜五
		教育長	香遠 正浩
		隨行	金子 祐介
新潟県	上越市	市長	中川 幹太
		教育長	早川 義裕
	胎内市	市長	井畠 明彦
		教育長	中澤 毅
	燕市	市長	鈴木 力
		隨行	遠藤 勝幸
新潟県	長岡市	代理	池田 博志
		代理	長浜 達也
	新潟市	市長	林 茂男
		教育長	岡村 秀康
		隨行	吉田 大輔
新潟県	上市町	町長	中川 行季
		市長	角田 悠紀
	高岡市	隨行	山下 正博
		市長	夏野 修
	砺波市	市長	鈴木 創悟
		隨行	藤井 裕久
		市長	植野 聰希
新潟県	富山市	隨行	高瀬 静
		市長	田中 幹夫
	南砺市	隨行	山本 悅司
		市長	片田 健一
	氷見市	市長	菊地 正寛
		隨行	西島 秀元
石川県	穴水町	町長	吉村 光輝
		教育長	大間 順子
	志賀町	隨行	宮森 一
		教育長	間嶋 正剛
	七尾市	隨行	大島 信雄
		教育長	八崎 和美
石川県	白山市	市長	田村 敏和
		隨行	村井 和孝
	あわら市	市長	森 之嗣
		隨行	近馬 重朋
福井県	永平寺町	町長	河合 永充
		教育長	竹内 康高
	吉見町	隨行	清水 栄翔

第17回「B&G全国サミット」

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
福井県	越前町	町長	青柳 良彦
		教育長	大川 伸介
	大野市	市長	石山 志保
		随行	澤田 陽彦
	勝山市	市長	水上 実喜夫
		随行	今井 正敏
	坂井市	市長	池田 稔孝
		随行	中林 みゆき
	福井市	代理	西村 真美
	美浜町	代理	今安 沙都子
山梨県	若狭町	町長	渡辺 英朗
		教育長	松宮 毅
		中部ブロック	
	甲斐市	市長	保坂 武
		教育長	内藤 和彦
		随行	瀧波 秀彰
		随行	小宮山 敦司
	甲州市	市長	鈴木 幹夫
		教育長	小林 俊彦
		随行	土屋 典子
		随行	廣瀬 信一
	中央市	市長	望月 智
		随行	降矢 将里
		随行	仲亜 拓也
		随行	田中 裕昭
		随行	赤坂 耕平
	富士河口湖町	教育長	松浦 一幸
		随行	北川 浩正
	北杜市	市長	大柴 邦彦
		教育長	清水 徳生
		随行	内藤 一貴
		随行	金子 葵
	南アルプス市	市長	金丸 一元
		教育長	上田 直人
		随行	三枝 万也
		随行	中込 啓太
	山梨市	市長	高木 晴雄
		教育長	嶋崎 修
		随行	武井 学
長野県	上松町	町長	大屋 誠
		教育長	植原 一郎
		随行	三浦 大育
	阿南町	町長	勝野 一成
		随行	関 研吾
	飯島町	町長	唐澤 隆
		教育長	片桐 健
	飯田市	代理	北村 翔太郎
		町長	峯村 勝盛
	飯綱町	教育長	馬島 敦子
		随行	黒柳 公太
	生坂村	村長	藤澤 泰彦
		教育長	上條 貴春
	大町市	市長	牛越 徹
		随行	小澤 誠一
	下條村	村長	金田 審治
		随行	宮嶋 義人
	長野市	代理	北島 克彦
		市長	湯本 隆英
	中野市	市長	町井 雅之
		随行	羽田 健一郎
	長和町	町長	藤田 仁史
		教育長	根橋 範男
	白馬村	村長	丸山 俊郎
		町長	名取 重治
	富士見町	教育長	矢島 俊樹
		随行	小林 直志
		代理	輪湖 稔
	松本市	代理	川野 晃裕
		代理	本庄 利昭
	御代田町	村長	佐藤 光宏
		教育長	白村 茂
	山形村	教育長	根橋 範男
		教育長	大塙 康彦
岐阜県	恵那市	副市長	後藤 治己
		随行	富田 成輝
	可児市	市長	堀部 好彦
		教育長	水野 正貴
	川辺町	町長	佐藤 光宏
		教育長	白村 茂
	高山市	代理	永田 友和
		町長	渡邊 圭太

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
岐阜県	富加町	教育長	坂井 伸生
		随行	龜山 和彦
	中津川市	市長	小栗 仁志
		教育長	岩久 義和
	御嵩町	随行	松井 嘉之
		町長	渡辺 幸伸
		教育長	奥村 恒也
		随行	臼比野 克彦
	八百津町	町長	金子 政則
		市長	草地 博昭
静岡県	磐田市	教育長	山本 敏治
		随行	兼子 順子
	御前崎市	教育長	吉村 紳治郎
		市長	久保田 崇
	掛川市	教育長	佐藤 嘉晃
		随行	前田 幸星
	河津町	教育長	鈴木 弘光
		町長	蘭田 靖邦
	川根本町	教育長	石原 一則
		随行	向島 裕人
愛知県	沼津市	副市長	吉澤 勇一郎
		教育長	奥村 篤
		隨行	山本 貴史
	浜松市	教育長	宮崎 正
		代理	仲井 英之
		隨行	澤木 翔
	袋井市	市長	大場 規之
		隨行	原田 功将
	富士宮市	代理	石川 佳和
		市長	杉本 基久雄
三重県	牧之原市	市長	大石 昌秀
		教育長	深澤 準弥
	松崎町	町長	渡邊 拓武
		副市長	葛谷 賢二
	清須市	市長	下江 洋行
		教育長	安形 博
	東栄町	町長	村上 孝治
		教育長	岡田 守
	豊川市	市長	竹本 幸夫
		隨行	小原 寛明
滋賀県	西尾市	市長	中村 健
		隨行	石川 孝次
	伊賀市	市長	稻森 稔尚
		隨行	佃 忠俊
	伊勢市	教育長	岡 俊晴
		隨行	村瀬 勇斗
	いなべ市	市長	日沖 靖
		教育長	大森 正信
	大台町	町長	中原 博
		教育長	木村 奈美
近畿ブロック	龜山市	市長	河上 敏二
		代理	桑名市 保志
	桑名市	町長	川瀬 諸岡
		教育長	高幸
	菰野町	教育長	北口 幸弘
		隨行	種村 龍輝
	志摩市	市長	橋爪 政吉
		教育長	舟戸 宏一
		隨行	丸山 健二
	大紀町	町長	橋本 勝弘
近畿ブロック	松阪市	代理	服部 吉人
		市長	北垣戸 淳
		教育長	小西 理
滋賀県	近江八幡市	教育長	安田 全男
		隨行	林 宏樹
	甲賀市	市長	岩永 裕貴
		教育長	立岡 秀寿
		隨行	柚口 浩幸
	高島市	副市長	中川 義人
		教育長	川島 浩之
		隨行	赤水 新次
	多賀町	町長	久保 久良
		教育長	山中 健一
近畿ブロック		隨行	竹田 幸司
		隨行	藤本 一之
	長浜市	市長	浅見 宣義
近畿ブロック		教育長	織田 恒淳
		隨行	田中 康弘

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
滋賀県	長浜市	随行	野邊 誠
	米原市	市長	角田 航也
		教育長	一ノ宮 賢了
		随行	戸田 樹
	野洲市	市長	櫻本 直樹
		随行	松井 健作
京都府	京丹波町	町長	畠中 源一
		教育長	松本 和久
		随行	小原 直也
	南丹市	市長	西村 良平
		教育長	國府 常芳
	宮津市	市長	城崎 雅文
		随行	原 章裕
大阪府	和束町	町長	馬場 正実
	堺市	代理	羽田 貴史
	千早赤阪村	村長	菊井 佳宏
	能勢町	代理	百々 孝之
兵庫県	芦屋市	市長	高島 嶽輔
		教育長	野村 大祐
		随行	樹井 大輔
	淡路市	市長	門 康彦
		教育長	角村 光浩
		随行	伊郷 勇一郎
	市川町	町長	津田 義和
		教育長	山下 茂樹
	猪名川町	町長	岡本 信司
		教育長	中西 一成
		随行	出水 良孝
	神河町	町長	山名 宗悟
		教育長	入江 多喜夫
	上郡町	町長	梅田 修作
	香美町	町長	浜上 勇人
	宍粟市	教育長	前田 純
	新温泉町	町長	森本 和人
		教育長	西村 銀三
		随行	山本 真
	丹波篠山市	教育長	中尾 良平
		市長	丹後 政俊
	丹波市	教育長	林 時彦
		随行	片山 則昭
		市長	谷水 仁
	豊岡市	市長	関實 久仁郎
		教育長	嶋 公治
		随行	原田 泰三
	姫路市	代理	西本 英史
	南あわじ市	副市長	喜田 繁和
		教育長	新田 忠敏
	養父市	市長	大林 賢一
		教育長	米田 規子
		随行	高木 信彦
奈良県	曾爾村	村長	芝田 秀数
和歌山县	紀の川市	教育長	山本 雅則
		市長	貴志 康弘
	串本町	町長	田嶋 勝正
	教育長	坂本 善光	
	随行	林 亨	
	新宮市	市長	田岡 実千年
		教育長	速水 盛康
		随行	谷 ゆかり
鳥取県	広川町	町長	樺原 淳奈
中国プロック			
鳥取市	教育長	河井 登志夫	
伯耆町	町長	森安 保	
北栄町	町長	手嶋 俊樹	
島根県	出雲市	教育長	笠見 隆志
		市長	三成 敏幸
	雲南市	随行	石飛 厚志
	江津市	市長	高橋 祐二
		随行	中村 中
	西ノ島町	教育長	大地本 江美
	浜田市	市長	澤 純子
		教育長	久保田 章市
		随行	岡田 泰宏
	松江市	代理	阿瀬川 文輝
岡山県	美郷町	町長	桑原 賢司
	教育長	嘉戸 隆	

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
岡山県	赤磐市	随行	近江 敏
	市長	奇峯 正二	
	浅口市	市長	栗山 康彦
	教育長	中野 留美	
	井原市	市長	大舌 黙
	教育長	伊藤 祐二郎	
	岡山市	代理	河原 謙一
	町長	山崎 親男	
	鏡野町	教育長	武本 吉正
	瀬戸内市	市長	武久 覲也
広島県	津山市	市長	谷口 圭三
		教育長	有本 明彦
		随行	樂万 昌博
	奈義町	町長	奥 正親
	教育長	和田 潤司	
	新見市	市長	石田 實
		教育長	正村 政則
		随行	深田 耕介
	備前市	副市長	杉浦 俊太郎
	真庭市	代理	南 博晴
広島県	美作市	副市長	春名 信明
	矢掛町	副町長	山縣 幸洋
		教育長	山部 英之
	和気町	町長	太田 啓補
	教育長	徳永 昭伸	
	安芸高田市	市長	藤本 悅志
	代理	柳川 知昭	
	尾道市	教育長	宮本 佳宏
	北広島町	町長	箕野 博司
	教育長	増田 隆	
広島県	吳市	市長	新原 芳明
	随行	平賀 英司	
	坂町	教育長	枝廣 泰知
	東広島市	市長	高垣 広徳
		教育長	市場 一也
		随行	堀田 剛
	府中市	市長	小野 申人
	随行	安原 翔	
	市長	大越 利夫	
	三次市	教育長	福岡 誠志
山口県	岩国市	市長	倉岡 和正
		教育長	守山 敏晴
	周防大島町	町長	遠藤 克也
		教育長	藤本 淨孝
	田布施町	町長	東 浩二
徳島県	長門市	教育長	伊藤 充哉
	代理	萩 未成	
	岩国市	教育長	康彦
	海陽町	市長	岩佐 義弘
		随行	山村 拓
		町長	金久 博
		教育長	三浦 茂貴
		随行	三浦 良
	徳島市	市長	森崎 忠憲
	教育長	遠藤 彰良	
徳島県	那賀町	市長	松本 賢治
		教育長	村上 大介
	東みよし町	市長	隨行
		教育長	山田 誠
	美波町	町長	橋本 浩志
		教育長	高岡 勇人
		町長	松浦 敬治
		教育長	天竹 勉
		町長	影治 信良
		教育長	寺内 康博
香川県	牟岐町	町長	橋本 一晴
		教育長	松浦 敬治
	綾川町	町長	今津 久仁
		市長	前田 武俊
	さぬき市	市長	大山 茂樹
		教育長	和田 浩二
	小豆島町	町長	大江 正彦
	高松市	代理	森川 準
	三木町	町長	伊藤 良春
	三豊市	市長	山下 昭史
		随行	下山 圭子
愛媛県	愛南町	町長	中村 維伯
		随行	清水 良一
	今治市	市長	徳永 繁樹

第17回「B&G全国サミット」

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
愛媛県	今治市	随行	徳永 浩貴
	鬼北町	町長	兵頭 誠亜
		随行	川口 大地
	久万高原町	町長	河野 忠康
		随行	段王 繁嘉
	西条市	市長	高橋 敏明
高知県	松山市	副市長	藤田 仁
		随行	中矢 光一
		随行	有光 一成
	四万十町	町長	中尾 博憲
		教育長	山脇 光章
		随行	竹内 浩子
	津野町	教育長	久寿 久美子
		随行	石田 純也
北九州ブロック			
福岡県	朝倉市	市長	林 裕二
		随行	保坂 厳憲
	飯塚市	市長	武井 政一
		教育長	桑原 昭佳
		随行	前田 啓太
		教育長	桑野 敏朗
	大任町	随行	後藤 勇輝
	川崎町	町長	原口 正弘
		教育長	森 秀二
		随行	谷 隆行
	久留米市	代理	山下 裕嗣
	築上町	町長	新川 久三
		教育長	久保 ひろみ
	福智町	町長	黒土 孝司
		副町長	竹下 靖
		教育長	朝部 英晴
		随行	澤井 秀孝
	みやこ町	町長	内田 直志
	みやま市	市長	松嶋 盛人
		教育長	待鳥 博人
佐賀県	宗像市	副市長	河野 克也
		随行	大塚 将司
	柳川市	副市長	江島 宏和
		教育長	橋本 秀博
長崎県	八女市	教育長	橋本 吉史
		随行	阿部 望
	宮若市	市長	塙川 秀敏
		教育長	中村 和彦
大分県	鹿島市	市長	實松 尊徳
		副市長	坂井 昌晃
	太良町	町長	永淵 孝幸
	みやき町	副町長	古川 修一
長崎県	壱岐市	市長	篠原 一生
		教育長	山口 千樹
	五島市	教育長	村上 富憲
	佐世保市	代理	百合 美保
	時津町	町長	山上 広信
	平戸市	随行	齋藤 健
		市長	黒田 成彦
	南島原市	隨行	山村 健介
		市長	松本 政博
		教育長	松本 弘明
大分県		隨行	井上 朱里
	宇佐市	市長	是永 修治
		教育長	川島 数志
	杵築市	市長	永松 悟
		教育長	清末 陽一
	玖珠町	町長	宿利 政和
		教育長	梶原 敏明
	国東市	市長	松井 睦治
		随行	藤原 寛喜
	佐伯市	代理	清家 祐己
宮崎県	竹田市	市長	土居 昌弘
		隨行	服部 善一
	中津市	市長	奥塚 正典
		教育長	古口 宣久
		隨行	木村 龍也
日田市	市長	棕野 美智子	
		教育長	江嶋 久典

道府県名	市町村名	役職	氏名（敬称略）
大分県	日田市	随行	梅木 悠也
	豊後高田市	教育長	河野 潔
		随行	河野 政文
		市長	相馬 尊重
	由布市	教育長	橋本 洋一
		随行	坂本 猛芳
南九州ブロック			
熊本県	あさぎり町	町長	北口 俊朗
		教育長	椎葉 勇二
		随行	福本 淩生
	宇城市	教育長	平岡 和徳
	菊池市	市長	江頭 実
		随行	笹本 聖一
	熊本市	副市長	中垣内 隆久
	玉名市	市長	藏原 隆浩
		町長	山田 豊隆
	津奈木町	教育長	塙山 一之
宮崎県	長洲町	町長	中逸 博光
		教育長	松永 光親
		町長	佐藤 安彦
	南関町	教育長	永杉 尚久
		随行	美奈川 徹
	美里町	町長	上田 泰弘
		教育長	宮寄 幸仁
	南阿蘇村	村長	吉良 清一
		教育長	今村 了介
	湯前町	町長	長谷 和人
鹿児島県	日南市	教育長	中村 富人
		随行	安井 佳奈
		市長	高橋 透
	宮崎市	随行	水元 宗広
		市長	井上 哲也
	阿久根市	市長	清山 知憲
		副市長	宇都宮 篤
	天城町	市長	西平 良将
		副市長	福島 浩
	奄美市	随行	遠矢 海里
鹿児島県	いちき串木野市	町長	森田 弘光
		教育長	院田 裕一
		随行	中 秀樹
	奄美市	市長	安田 壮平
		教育長	向 美芳
	いちき串木野市	随行	美里 洋秋
		市長	中屋 謙治
	鹿屋市	随行	品川 悠平
		副市長	原口 学
	薩摩川内市	市長	永山 俊一
沖縄県	さつま町	市長	田中 良二
		随行	石原 勝浩
		町長	上野 俊市
	志布志市	教育長	中山 春年
		随行	橋口 孝人
	長島町	教育長	福田 裕生
		副町長	長岡 勇二
	日置市	教育長	田淵 省二
		随行	脇田 高洋
	南大隅町	市長	永山 由高
沖縄県	南大隅町	教育長	奥 善一
		町長	石畑 博
	南さつま市	教育長	山下 四郎
		随行	渡邉 忍
	湧水町	市長	本坊 輝雄
		随行	内田 文香
	与論町	町長	池上 滉一
		教育長	平 幸二
沖縄県	伊江村	町長	田畠 克夫
		教育長	中山 義和
	久米島町	随行	名城 政英
	名護市	随行	知念 寿人
		市長	幸地 伸也
本部町	本部町	随行	渡具知 武豊
		市長	新城 美海
	本部町	随行	宮城 浩二
		町長	平良 武康
		随行	安里 孝夫

第21回 「B&G全国教育長会議」

『部活動の地域“移行”から“展開”へ！

～「指導者の確保」は課題解決につながるのか？～』



2024年11月22日（金） 13:00～

イイノホール&カンファレンスセンター（東京都千代田区）



第21回「B&G全国教育長会議」

第21回「B&G全国教育長会議」概要 部活動の地域“移行”から“展開”へ！～「指導者の確保」は課題解決につながるのか？～

2024年11月22日（金）東京都千代田区のイイノホール&カンファレンスセンターにて第21回「B&G全国教育長会議」を開催しました。当日は、過去最多となる全国45道府県238自治体から教育長222人、代理出席16人など総勢295人の自治体関係者が参加。昨年度も取り上げたテーマである「部活動の地域移行」の第2弾として、今年度は改革を進めるうえで課題の一つとなっている「指導者の確保」に焦点を当て、基調講演や事例発表、コーヒーブレイクなどを通じ、課題解決に向けた積極的な情報共有と意見交換を行いました。

(◎出席者内訳)

海洋センター関係：教育長222名、代理16名、随行57名 計295名

来賓・関係者等：9名／講師・登壇者：3名／報道関係：1名 総合計308名

第21回「B&G全国教育長会議」次第

1. 主催者挨拶
2. 来賓挨拶・紹介
3. 正副会長選任・挨拶
4. 導入

「『部活動の地域移行に関する現状調査（第2弾）』結果報告」

B&G財団海洋センター・クラブ課

5. 基調講演

「地域部活動の新しい形の創出～『学校部活動』を新たな『地域コミュニティ活動』へ～」

一般社団法人未来地図 代表理事

前長野県飯田市 教育長 代田 昭久 様

6. 事例発表①

「休日部活動の地域展開に向けた佐渡市の取組」

新潟県佐渡市 教育長 香遠 正浩 様

7. 事例発表②

「海洋クラブの活動と部活動における取組について」

B&G海クラブ伊豆海洋クラブ 代表

NPO法人海クラブ伊豆 理事 酒井 厚志 様

8. スポーツ庁の施策や直近の動き

「部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に向けた環境の整備」

スポーツ庁地域スポーツ課 課長補佐 竹河 信裕 様

9. コーヒーブレイク（教育長同士の意見交換会）

10. B&G財団事業説明

11. 能登半島地震被災地支援事業報告

12. B&G全国教育長会議「提言」

13. 総括

13:00～ 主催者挨拶（公益財団法人B&G財団 会長 前田康吉）

本日は第21回「B&G全国教育長会議」を開催いたしましたところ、公務ご多用のなか、全国から過去最多となる222名の教育長様をはじめ、総勢300名を越える皆様にご出席いただき、心よりお礼申し上げます。

また、日本財団理事長の尾形様をはじめ、日頃から当財団に多大なるご支援を頂いておりますご来賓の皆さんにも多数ご臨席を賜り、重ねてお礼申し上げます。

さて、今年度の会議テーマは「部活動の地域“移行”から“展開”へ 『指導者の確保』は課題解決につながるのか？」でございます。

昨年度の会議でも、「部活動の地域移行」をテーマに取り上げ、多くの有益なディスカッションが行われ、参加者の皆様から「非常に実りが多かった」「次回もぜひ参加したい」との声を多数いただきました。

これを受け、本日は「部活動の地域移行」の第2弾として、昨年度の会議で最も課題と感じられた「指導者の確保」に焦点をあてた内容で皆さんと会議を進めていきたいと思います。

そこで、本日は、長野県飯田市 教育長を歴任され、現在は一般社団法人未来地図 代表理事を務められる代田様の基調講演の他、既に改革を進めておられる自治体教育長様や海洋クラブの方にも、先進事例をご発表頂くことになっておりますので、各自治体における課題を解決していくためのヒントとして是非持ち帰っていただきたいと思います。

なお、本日は会議の途中に、お飲み物や軽食等を提供させていただく、コーヒーブレイクの時間を設けております。是非この機会に、全国の教育長の皆さんとの意見交換の場として有意義にお使い頂ければ幸いでございます。

終わりに、本日の会議が実り多いものとなることを期待するとともに、B&G海洋センターの積極的活用、そしてB&G財団への引き続きのご理解、ご協力をお願い申しあげ、開会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

主催者挨拶

B&G財団 会長
前田 康吉



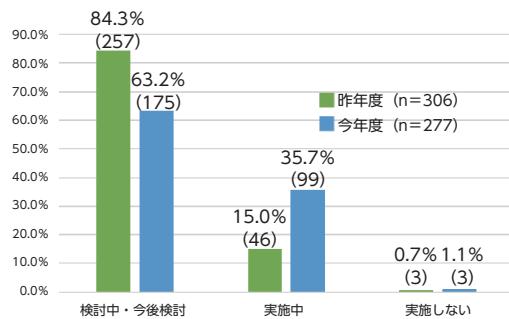
第21回「B&G全国教育長会議」

13:30～ 「部活動の地域移行に関する現状調査」結果報告

B&G財団より、B&G所在379自治体の教育長を対象に実施した「部活動の地域移行に関する現状調査」(2024年9月実施／有効回答数：278)の結果を報告しました。

昨年度の同会議終了後の進捗状況の把握を主な目的とし、今年度も同様の現状調査を実施した結果、部活動の地域移行が着実に進んでいることが明らかとなりました。また、昨年度課題として多数挙げられた「指導者」について、基調講演・事例発表を通して新たな考え方をお持ち帰りいただけたらと呼び掛けを行いました。

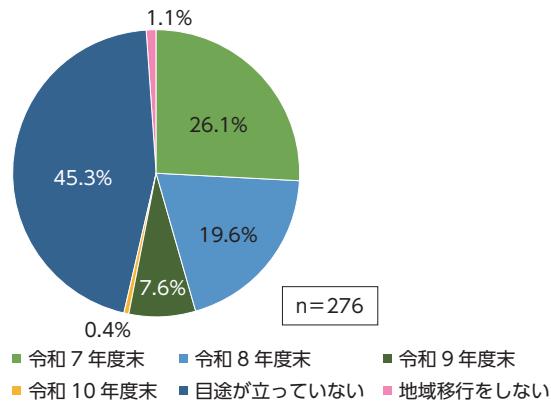
「休日の部活動の地域移行」の取り組み状況について、昨年度と今年度の回答比較



●傾向と分析●

『実施中』の割合が前年度15%（46自治体）に対し、今年度は35.7%（99自治体）と、20.7%（53自治体）増加しました。『検討中・今後検討』の割合が前年度84.3%（257自治体）に対し、今年度は63.2%（175自治体）に減少しました。以上のことから、この1年間で、いくつかの自治体が慎重な検討から具体的なアクションに移行したことが読み取れます。

「休日の部活動の地域移行」の完了時期

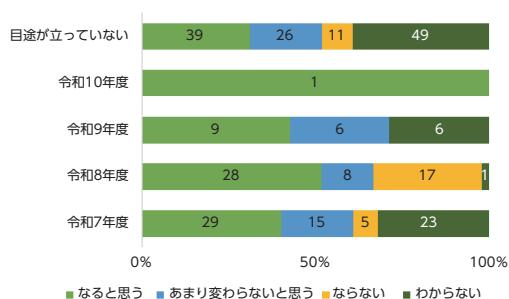


●傾向と分析●

「目途が立っていない」と回答した割合が高く、現時点では「地域移行をしない」としている自治体もあることが分かりました。

「令和7年度末～10年度末」で地域移行を検討している自治体の中で、「令和7年度末」に移行を目指す割合が最も高かったです。これは前年度と比較して、部活動の地域移行に向けた取組が進んでいる傾向にあるとわかります。

「休日」の部活動の地域移行完了時期（見込み含む）×完了後に生徒にとって現在より豊かで充実したものになるか？



●傾向と推測●

移行完了予定が「令和7年度」「令和8年度」では、「なると思う」と考える割合が高く、移行が早いほど制度充実に対する期待があるのではないかと推測されます。

逆に「目途が立っていない」場合、「わからない」が多く、移行の不透明さが制度充実の期待感にも影響を与えると考えられます。これは、具体的な施策や計画の決定に至っていないことから、不安につながっている可能性があるのではないかと推測します。

第21回「B&G全国教育長会議」正副会長のご紹介・会議のご感想

会長 兵庫県養父市 教育長 米田 規子 様



いつも感心させられるのは、B&G財団様の会議の企画力と内容の濃さです。本年度の「移行から展開へ」のテーマは、まさに、私たち教育長が今知りたい、今語り合いたい大きな課題。代田様をはじめ3名の皆様の基調講演、事例報告が一連のストーリーのように構成され、説得力のある具体的なモデルを示していただくことによって、部活動の地域展開には子どもたちばかりでなく地域と住民の希望と活力を生み出す力がある、ということを再確認できました。

B&G財団様の全国の教育長と教育そのものに向けた期待と熱意に圧倒されながらも、具体的に、より加速して動き出すよう背中を押された心持ちが今も続いています。今回の会議でいただいたキーワードは、「目的と意識の共有」。本会で得た全国の教育長様とのネットワークを今後も大切にし、この度、仰せつかりました会長の職を、2名の副会長とともに全力で努めて参ります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

副会長 高知県四万十町 教育長 山脇 光章 様



第21回「B&G全国教育長会議」が盛大に開催されましたこと、また、参加できましたことに心より感謝申し上げます。今回も喫緊の課題である部活動の地域移行に関して、(一社)未来地図代表理事の代田昭久様の基調講演、そして、佐渡市・伊豆海洋クラブ様の特色ある取組事例は、地域“移行”から“展開”への一步を踏み出す多くのヒントをいただきました。

本会議の提言である「多様な活動ができる環境の整備」を目指すためには、現状を改革し創造的な視点を持ったリーダーシップが必要であり、あらためて将来のあるべき姿を整理する機会となりました。まだまだ課題は多くありますが、全国の海洋センター所在自治体様とともに共通理解を深め連携強化の基盤づくりが進むことを期待しています。

副会長 福島県塙町 教育長 秦 公男 様



この度の「第21回B&G全国教育長会議」は、私ども参加者にとりまして大変有意義な内容がありました。部活動の地域移行は、非常に難しい課題であります。教育長会議の提言にありましたように、「多様な活動ができる環境の整備」「子どもたちが将来にわたり多様なスポーツや文化活動に親しめる環境を創り、地域活性化につなげよう」は、部活動に対する子どもたちのニーズの変化や、まさに当町塙町も直面している少子高齢化や過疎化、学校の統廃合や生徒数の減少に伴う部活動メニューの縮小等厳しい状況にあります。様々な関係団体のご協力を頂きながら生涯にわたり子どもたちが多様なスポーツや文化活動に親しめる環境を整えることができるよう努力して参ります。この度は大変お世話になりました。

13:35～ 基調講演

「地域部活動の新しい形の創出～『学校部活動』を新たな『地域コミュニティ活動』へ～」

一般社団法人 未来地図 代表理事 代田 昭久 様

昨年度の本会議でファシリテーターを務めていただいた（一社）未来地図 代表理事の代田氏を、今年度は基調講演講師としてお招きしました。「なぜ、部活動の地域移行は進まないのか?」「どうしたら、人材を確保できるのか?」といった観点から、地域コミュニティ活動としての新しい部活動の形について基調講演をいただきました。

【基調講演内容 概要】

なぜ、部活動の地域移行は進まないのか？

▶①手段であるはずの「部活動の地域移行」が目的化している

部活動の地域移行が、子どもたちのための持続可能で多様な活動を創造するという目的を達成する手段としてではなく、目的として捉えられ、地域移行後の理想像が十分に検討・共有されていない。

▶②「目的」に子どもたちの意見が反映されていない

部活動の移行後の理想像を大人たちだけで決定し、子どもたちのニーズや志向を無視して進めてしまうことは極めて危険であり、子どもたちの意見を尊重することが重要である。

▶③「目的」から逆算し、新しい手立てが打てていない

地域移行という言葉が一人歩きをし、学校・保護者・地域・関係者がそれぞれ異なる解釈をしているため、これまでの部活動の役割や価値に捉われ、るべき未来の検討に至っていない。将来あるべき未来像を描き、到達に向け新しい手立てを実行することが必要である。

どうしたら、人材を確保できるのか？一人材確保のための方向性—

▶①「指導者の確保」から「人材のネットワーク化」へ

これまで一人の指導者（教職員）が担ってきた役割を運動指導・専門的技術・教育的支援・大会運営等サポートなど4段階程度に定義し直し、地域の人に分担してもらうことから始める。確保するという上から目線の発想から、「地域の子どもは地域で育てる」という旗印のもとに人材をネットワーク化する。人づくりの発想へと転換し、指導ではなく、伴走・支援してくれる人材をつなげていくことが大切。

▶②「自治体単位」から「広域の連携」へ

指導者の確保のみならず、施設の整備や移動手段の確保など、少子化が進む地域では単独の自治体でこれらの課題を解決することは難しいため、自治体の枠を超えた広域連携を進め、協力して解決策を模索する必要がある。

▶③教職員の力を生かす

適切な報酬が支払われ、自分の専門分野が生かせれば地域指導者として部活動の指導をしても良いという教職員は2割程度いる。地域の社会教育活動として、こうした教職員を生かし、地域住民と学校をコラボレーションさせることで地域の教育力向上につなげる。



最後に、部活動改革は子どもたちが好きなことに積極的に関わり、深く豊かな知覚を持って探求できる環境づくりの絶好の機会になるとし、自治体単独ではなく、本会議を全国の教育委員会がつながるチャンスと捉え、みんなで力を合わせて、部活動改革に挑戦していきたいと述べられました。



事例発表

今回の事例発表では、自治体とB&G海洋クラブ（民間団体）からそれぞれ発表をいただきました。自治体側からは、新潟県佐渡市教育長の香遠氏より、生徒一人一人が希望する種目・活動形態に合わせた「佐渡市地域クラブ活動」について発表をいただきました。B&G海洋クラブからは、B&G海クラブ伊豆海洋クラブ代表の酒井氏より、近隣の小中学校へのマリンスポーツ体験会の提供や、下田中学校サーフィン部への指導について発表をいただきました。行政と民間の観点から、「部活動の地域“展開”」を実施していく上での手法・課題点等について考えました。

13：35～ 事例発表①

「休日部活動の地域展開に向けた佐渡市の取組」

新潟県佐渡市 教育長 香遠 正浩 様

【事例発表 概要】

佐渡市地域クラブの概要

佐渡市では「スポーツや文化活動に親しみ、生きる力を育み、自己実現を図る」を目標に掲げ、地域クラブの活動に取り組んでいる。勝利を目指すスポーツや、技術向上をねらいとする文化芸術活動のみならず、楽しく取り組める活動を用意。指導者、友達、異年齢との交流・協働により社会性を養うとともに、生徒一人一人が望む活動を選択できる環境を整備し、達成感が得られる活動を用意することで、自分の良さや可能性を再確認できる地域クラブを目指している。活動形態は「スキップ型」と「エンジョイ型」があり、スキップ型はこれまでの部活動種目を中心に個々のスキルアップや経験を積めるよう、学校の枠を超えての参加を可能としている。エンジョイ型はスポーツや文化活動を楽しむことを目的に学校の部活動にない種目とし、誰でも活動に参加できるようにした。



地域人材の活用

指導者がいなくては活動ができないため、スポーツ活動は各種競技団体やスポーツ協会に指導を依頼している。文化活動は、公民館の自主講座等で活動しているメンバーに指導を依頼して実施。この自主講座のメンバーが指導者となることで、生涯学習の循環につながるものと考えている。

また、学校の教員と同様の信頼を得、活動中の安心・安全を確保するために、指導者に安全管理マニュアルと指導の手引きを渡し、会場からの避難経路や適切なコミュニケーション等についてあらかじめ考えておくように伝えている。

地域人材の育成

地域クラブ活動の成否は指導者の評価にかかっている。指導者にはカウンセリングマインドや発達段階における中学生の特性等について研修会で学んでもらう。さらに、指導技術向上のため、SEA(スポーツ国際交流員)の制度を活用し、専門的な技術指導を行っており、生徒や保護者からも好評を得ている。

佐渡市では、今後も島外企業との連携による指導者の確保や、送迎等の保護者の負担感などの課題と向き合いながら、地域クラブ活動の取り組みを進めていく。

エンジョイ型（文化）	エンジョイ型（スポーツ）
競技かるた	トレッキング
佐渡探求（トキ・金山）	陸上
美術	ボルダリング
華道・茶道	ゴルフ
習字	マリンスポーツ
ギター	体操
人形芝居	空手
囲碁・将棋	硬式テニス
民謡・三味線	空手
英会話	自転車
写真・イラスト・漫画	サッカー
プログラミング入門	水泳
裂き織り	スキー
能楽・鬼太鼓	ダンス
吹奏楽	柔道・剣道

第21回「B&G全国教育長会議」

14:15～事例発表②

「海洋クラブの活動と部活動における取組について」

B&G海クラブ伊豆海洋クラブ 代表 酒井 厚志 様

【概要】

2004年に下田市立白浜小学校の校外活動で、PTAを中心に釣りや海草押し花づくりなどのサポートしたことをきっかけに活動を開始しました。この活動を継続し、安定した運営ができるように、2012年にNPO法人海クラブ伊豆を設立しました。設立後は白浜小学校だけでなく、下田東中学校、浜崎小学校、下田中学校など周辺の小中学校のマリンスポーツ体験会やクラブ活動なども担当しています。2020年にはB&G海洋クラブに登録して事業を拡張し、現在は一般社団法人マリンネット下田、一般社団法人白浜オーシャン管理機構、NPO法人下田ライフセービングクラブと協力して事業を展開しています。



特徴的な活動として、中学校の部活動としては宮崎県日南市に次いで全国2校目となる、下田中学校にサーフィン部を設立し、その指導にあたっています。現在の部員総数は39人で、月・金曜日は陸上トレーニング、火・木曜日はプールトレーニング、土または日曜日は海トレーニングを行っています。部活動が生徒に与える効果としては、自己効力感の向上や心身の健康維持、環境意識の向上などが考えられます。部活動が地域に与えた影響としては、3人の部員の家族が県外から移住してきたことや、保護者や地元サーファーが“見守り隊”として、活動の安全を見守るボランティアの協力体制が構築されたことなどが挙げられます。今後も助け合う心の育成や環境問題、海の怖さを知るなど、マリンスポーツだけでなく、様々なことを学び得る機会をつくっていきたいと思います。



14:30～スポーツ庁からの説明

「部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に向けた環境の整備」

スポーツ庁 地域スポーツ課 課長補佐 竹河 信裕 様

【概要】

少子化が進む中でも、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しみができる機会を確保するため、「地域連携」として合同部活動や部活動指導員等の活用、「地域移行」として休日の地域クラブ活動を推進してまいりました。地域移行に取り組む部活動数は年々増加しており、2025年度までに全体の54%（23,308部活動）が地域連携または地域移行での活動を予定しています。スポーツ庁では「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」の中に、地域スポーツクラブ活動と地域文化芸術活動の2つのワーキンググループ（WG）を立ち上げました。それぞれのWGで実証事業の取組状況を踏まえた課題の整理や解決策の検討、また受益者負担と公的支援のバランスを踏まえた今後の在り方などについて議論しています。



2026年度以降は「改革実行期間」として、地域移行という名称を「地域展開」に変更し、市区町村が幅広い関係者の理解と協力の下、平日・休日を通じた活動を包括的に企画・調整し、多様な選択肢の中から地域の実情等に合った望ましい有り方を見出していくことが重要であると考え、検討を進めています。

当日の様子



受付ロビー



多くのご出席者様



B&Gフレンドシップ
PROJECTパネル



B&GフレンドシップPROJECT



コーヒーブレイクで
活発な情報交換



参加者からのご発言もありました



コーヒーブレイクでの
ワークショップ



参加型の会議となりました



コーヒーブレイク進行



取り組んでみたいテーマに
シールを貼って可視化



テーマに沿ったコーヒーブレイク



岸様による会議のご感想

第21回「B&G全国教育長会議」

第21回「B&G全国教育長会議」の提言

一．多様な活動ができる環境の整備

子どもたちが将来にわたり多様なスポーツや文化活動に親しめる環境を創り、
地域活性化につなげよう

2024年11月22日
海洋センター所在市町村 教育長 一同

今回の教育長会議の提言として

「一．多様な活動ができる環境の整備 子どもたちが将来にわたり多様なスポーツや文化活動に親しめる環境を創り、地域活性化につなげよう」を提案します。

近年、部活動に対する子どもたちのニーズが変化し、様々なスポーツや文化活動を体験したいと考えている子どもたちが増加している中、少子高齢化や過疎化、学校の統廃合や生徒数の減少に伴う部活動メニューの縮小などの影響を受け、子どもたちが多様なスポーツや文化活動に親しめる機会の創出が難しくなってきています。

しかしながら、子どもたちの体験機会を確保していくためには、これからも根気強く環境を整備していくことが必要不可欠です。そこで、従来の指導者観を刷新し、新しい指導者像の考え方を取り入れながら、地域のスポーツ団体や文化活動団体、「B&G海洋クラブ」の指導者などにご協力いただくことで、生涯にわたり子どもたちが多様なスポーツや文化活動に親しめる環境をつくっていくことが重要ではないでしょうか。このような取り組みが、ひいては地域のスポーツや文化活動、伝統芸能の存続にもつながり、地域振興や活性化の一助にもなると考えます。

未だに多くの課題が山積しておりますが、子どもたちの将来の選択肢を減らさぬよう、全国一丸となって乗り越えていきましょう。

私たちには、「B&G海洋センター」・「B&G海洋クラブ」と、そこで活躍する熱心な指導者の存在、そして、このような全国各地の取組みを共有できるネットワークもあります。課題を乗り越えるために横の連携をさらに強化し、知恵と工夫を凝らしながら、新しい目標に向かっていきましょう。

◎執行部からの提案を受け、会場の賛同のもと、子どもたちのために、新たに「多様な活動ができる環境の整備」を追加することが確認され、会議が終了しました。

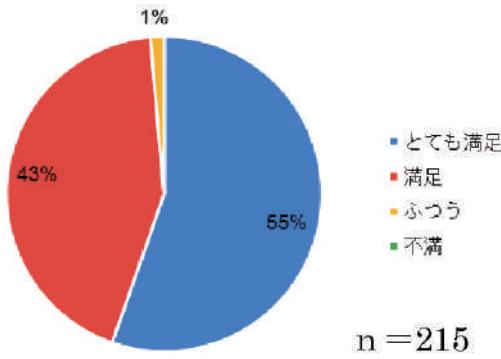


提案する養父市教育長 米田会長



参加者アンケートの結果

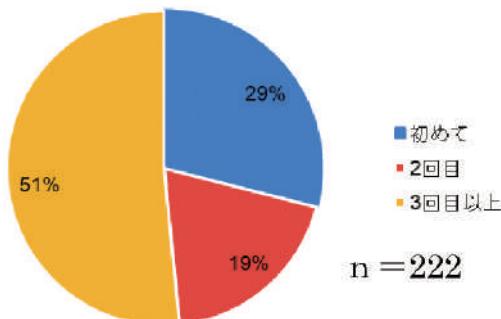
①本会議の全体満足度



会議終了後に徴収したアンケート調査によると、今回の教育長会議の総合的な満足度として、回答者215名のうち、210名が「とても満足」(118名)もしくは「満足」(92名)と答えました。

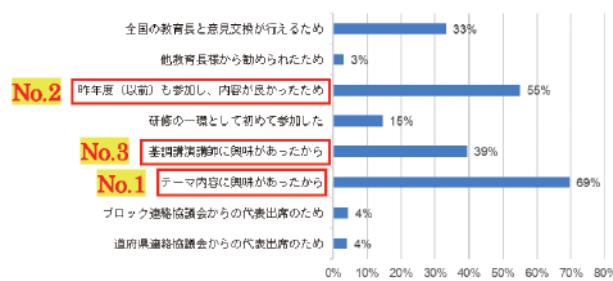
特にプログラムの内容については、「基調講演」「事例発表（新潟県佐渡市）」の順に満足度が高い結果となりました。

②本会議への出席回数



回答いただいた222名のうち、70%の方が2回以上参加いただいていることが分かりました。また出席者の約半分(51%)が、3回以上にわたりご出席いただいていることから、一定数以上の教育長に会議出席の必要性を実感していただいていること、会議の認知度が向上していることが伺えました。

③本会議への参加理由



テーマ内容に興味があり参加された教育長が一番多い結果となりました。次いで、これまでの教育長会議の内容が良かったこと・基調講演講師に興味があったことも主な参加理由として挙げられました。

その他理由：他の自治体と繋がっていくため、毎年参加しているため、前教育長から勧められていたため

④次年度に希望するテーマ

- 第1位：部活動の地域移行（第3弾）…33%
第2位：不登校対策、多様な学び場について…19%
第3位：子どもの居場所づくり…11%

引き続き、部活動の地域移行に対する皆様の関心が高いことが分かりました。次年度も教育長のニーズに合ったテーマ選定を行い、皆様の期待に沿えるような会議にできるよう準備を行ってまいります。

第21回「B&G全国教育長会議」

第21回B&G全国教育長会議 参加者感想（一部抜粋）

●今回初めて参加させていただきました。今私たちが直面している課題を取り上げていただき、課題解決に向けての様々な方向から考えるよい機会となりました。「子どもたちが求める文化・スポーツ活動とは何か」この視点にしっかりと向き合いながら、地域移行を進めてまいりたいと思います。

●現在取り組んでいる課題について、改めて考える機会となった。一步でも二歩でも進めたい。今後も、今日的なテーマを取り上げてもらえると幸いである。

●第21回会議が盛会に開催され、また、参加できたことに感謝いたします。各部活動の地域展開の先駆的好事例を参考として、未来へ向けて子どもたちが健全に成長すること、さらにはこの取組が地域活性化につながるヒントをいただきました。その実現のためにも、各自治体の情報共有と連携・協働が大切であり、そのコーディネートと推進役としB&G財団に感謝します。今後も有益な本会議を楽しみにしています。

●講演や事例発表、教育長同士の意見交換など、本市の取り組みについて参考となる多くの情報を得ることができましたこと心よりお礼申し上げます。今後も見識を広げ学びを深めることができる本会議の開催を期待しております。前例のない社会を生きる子どもたちに、どのような力を育み、生涯に渡ってウェルビーイングを享受できる地域コミュニティを実現していく施策を進めていく上で、とても参考になる内容で刺激を受けました。

●この度の教育長会議も、大変学びが多い会議でした。昨年にも増して、多くの教育長様がご参加されていました。これは、皆さまの教育長会議に向けての周到な準備と、テーマ設定が全国の教育長様に響いたが故の参加者数であったと思います。また、いつも参加させていただいて感じるのは、職員の皆様の丁寧な準備とお声かけ、澆刺とした姿と対応です。こちらまで、背筋が伸びるような思いがいたします。若い職員の皆様が、誠心誠意の対応をされている姿を見ると、未来に明るい希望を持てるような心持ちになります。

●今回のテーマは、本町でも喫緊の課題であり、今後の取り組みに大いに参考になりました。ただ、都市部と過疎地との様々な条件が異なっている事も再認識しました。

●初めて参加しました。本町でも課題であるテーマでしたので、参考になりました。この内容は近隣の市町村教育長にも伝えていく予定です。

●第21回会議が盛会に開催され、また、参加できたことに感謝いたします。

部活動の地域展開の先駆的好事例を参考として、未来へ向けて子どもたちが健全に成長すること、さらにはこの取組が地域活性化につながるヒントをいただきました。

その実現のためにも、各自治体の情報共有と連携・協働が大切であり、そのコーディネートと推進役としB&G財団に感謝します。

今後も有益な本会議を楽しみにしています。

●部活動地域展開の好事例を聞くことができ、基調講演で教示いただけたことが、今後の進め方の指針となった。大変参考になりましたありがとうございました。

●昨年から出席させていただき、今年度も良い学びとなりました。

部活動への加入率も87%と高く、中学校教員への保護者の依存もあり難しい状況です。

子どもたちの意見を聞くことを第一とすることとします。

●年に一回出席していますが、この会議に参加してネットワークができたことがよかったです。会議の構成・内容も大変良いものでした。

●基調講演の基にあるのは子ども達への深い愛情であると感じた。部活動の地域移行は子どももそして地域の大人も幸せにするものでなくてはならないという信念のもと、スポーツや文化の持つ素晴らしさで地域の活性化にも大きく貢献する考え方であり、今まで何人から聞く機会のあった色々な講演会の中で最も心を揺さぶられた、素晴らしいものであった。

●優れた先進事例に触れ、本町の実態の解決を図る取り組みに繋げていく大きなヒントをいただいた。こうした機会に感謝します。

●最先端であったり、タイムリーであったり、全国規模であったり、価値ある情報をたくさんいただき、求めている懸案の解決や方向性を示唆いただける、貴重な機会となりました。

●会議ではタイムリーな話題と先進地発表により毎回新たな刺激をいただいております。

インクルーシブ教育が推進されていますが、いまだ現場では校内棲み分けに終始している現状です。本質的な取り組みについて議論や提言の場があると良いと思っています。

次回のご案内

第18回 「B&G 全国サミット」

第22回 「B&G 全国教育長会議」

B&G財団では、会議を通じて、市町村長様、教育長様とのネットワークを更に深め、連帯、協力を密にし、地域住民の皆様の健康づくりに力を注いでいきたいと考えております。

第18回 「B&G 全国サミット」

日時：2026年1月23日（金）

場所：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

対象：地域海洋センター所在市町村の市町村長様、

教育長様 他

内容：基調講演、優良海洋センター表彰 等



第22回 「B&G全国教育長会議」

日時：2025年11月13日（木）

場所：イイノホール（東京都千代田区）

対象：地域海洋センター所在市町村の教育長様 他

内容：事例発表、教育専門家による講演 等



– 皆様のご参加をお待ちしております –